

設 計 書

工事名称 松戸市消防訓練センター管理棟外壁改修工事

工事場所 松戸市八ヶ崎四丁目 5 0 番地の 2

工 期 自 令和 年 月 日
至 令和 9 年 3 月 2 6 日

設計年月日 令和 8 年 8 月

(工事価格)

前払金及工事出来高の内払回数については松戸市財務規則による。

参 考

[illegible]

建築工事 直接仮設						
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
【管理棟】						
養生		1	式			別紙 00-0001
整理清掃後片付け		1	式			別紙 00-0002
枠組本足場 (手すり先行方式)	W900 防水含む	1	式			別紙 00-0003
安全手すり (手すり先行方式)	枠組本足場用	1	式			別紙 00-0004
外部仕上足場 (改修)	階高4.0m以下 脚立足場 塗装塗替え程度 既存塗膜の除去有り	1	式			別紙 00-0005
養生シート張り	防災 類	1	式			別紙 00-0006
小幅ネット張り (層間塞ぎ)		1	式			別紙 00-0007
金網式養生枠		1	式			別紙 00-0025
養生防護棚 (直線部)		1	式			別紙 00-0008
内部仕上足場 (改修)	階高4.0m以下 脚立足場 一般 -	1	式			別紙 00-0009
仮設材運搬		1	式			別紙 00-0010
【油脂庫】						
養生		1	式			別紙 00-0011
整理清掃後片付け		1	式			別紙 00-0012
枠組本足場 (手すり先行方式)	W900 防水含む	1	式			別紙 00-0013
安全手すり (手すり先行方式)	枠組本足場用	1	式			別紙 00-0014
金網式養生枠		1	式			別紙 00-0026
内部仕上足場 (改修)	階高4.0m以下 脚立足場 一般 -	1	式			別紙 00-0015

[illegible]

建築工事						
建築工事		外壁改修		撤去		
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
【管理棟】						
鋼製戸撤去	片開き戸 枠共 集積共	1.6	m ²			
アルミ製窓撤去	引き分け窓・枠・ホリカホネット板共 集積共	6.3	m ²			
壁パネル撤去（両面）	一重張り 一般 集積共 登はん訓練板	70.4	m ²			
壁 T-1合板撤去	一重張り 一般 集積共 煙道壁面部	100	m ²			
壁下地撤去	集積共 登はん訓練板・煙道壁面部	170	m ²			
アルミアンガル撤去		26.1	m			
ガラス シーリング撤去	屋外側 集積共	191	m			
たてどい撤去	VP管 集積共	39	m			
天井裏換気パイプ 撤去		15	か所			
ベントキャップ撤去		14	か所			
室名札撤去		3	か所			
看板撤去		1	か所			
掲示板撤去		2	か所			
階段侵入防止鉄板 撤去		1	枚			
屋根材とりこわし （集積共） （手間）	垂鉛鉄板 - -	27.2	m ²			
屋根下地撤去	集積共	27.2	m ²			
ガリ付通気パイプ 撤去		40	か所			
【油脂庫】						

[illegible]

建築工事						
外壁改修			改修			
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
【管理棟】						
壁改修下地調査費		382	m ²			
天井改修下地調査費		100	m ²			
外壁高圧水洗い (手間・損料共)	12MPA(120kg/cm ²)	382	m ²			
天井高圧水洗い (手間・損料共)	12MPA(120kg/cm ²)	100	m ²			
(ALC面)						
ALC板ひび割れ部 エポキシ樹脂シール (材工共)	幅10mm	53	m			
ALC板ひび割れ部 (ウレタン・シリコン充填) (材工共)	エポキシ・ウレタン・シリコン 10×10～15mm エポキシ・ウレタン・シリコン充填有り	35	m			
欠損部処理 (材工共)	幅100mm,長さ100mm,平均深20mm程度 ハツリ、錆落、ラッシング、エポキシ樹脂モルタル埋	109	か所			
既存塗膜除去部 下地調整費	ALC/コンクリート面 屋外 C-1	16	m ²			
(コンクリート・モルタル面)						
コンクリートひび割れ部 エポキシ樹脂シール (材工共)	幅10mm	30	m			
コンクリートひび割れ部 (ウレタン・シリコン充填) (材工共)	エポキシ・ウレタン・シリコン 10×10～15mm エポキシ・ウレタン・シリコン充填有り	19	m			
欠損部処理 (材工共)	幅100mm,長さ100mm,平均深20mm程度 ハツリ、錆落、ラッシング、エポキシ樹脂モルタル埋	61	か所			
モルタル浮部改修 部 分エポキシ樹脂注入 (材工共)	一般部 16本 / m ²	10	m ²			
既存塗膜除去部 下地調整費	コンクリート面 屋内外 C-1	9	m ²			
(ALC面)						
可とう形改修 塗材 E	シリコン系 薄付け仕上	290	m ²			
複層塗材 E	ALC面 ゆず肌状 ロータ塗り シリコン系 水系 つやあり 上塗2回 下地調整費(C-2)共	20.6	m ²			
(コンクリート・モルタル面)						

建築工事		外壁改修		改修		
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
可とう形改修 塗材 E	シリコン系 薄付け仕上	46.1	m ²			
複層塗材 E	コンクリート面 ゆず肌状 ロ-ラー塗り シリコン系 水系 つやあり 上塗2回 下地調整費(C-2)共	11.5	m ²			
水性反応硬化形軒 天用仕上塗材	軒裏	100	m ²			
基礎巾木用塗料	下塗1回・主材塗2回 下地調整C-1塗り共	13.9	m ²			
ALC目地シーリング	一般部 油性シリコン系(PU-2) 10×10	585	m			
化粧目地シーリング	一般部 油性シリコン系(PU-2) 30×20	2.9	m			
建具廻りシーリング (仕上げあり)	一般部 油性シリコン系(PU-2) 20×10	194	m			
建具水切り部分 シーリング	一般部 変成シリコン系(MS-2) 20×10	26	m			
ガラス廻りシーリング	一般部 シリコン系(SR-1)	191	m			
硬質ポリ塩化ビニル管とい(カー)	径100	145	m			
天井裏換気パイプ 新設 (材工共)	40φ ステンレス製 網付	15	か所			
ベントキャップ	ステンレス製 200φ	14	個			
煙道通気パイプ 新設 (材工共)	ガラリ付	40	か所			
既存サッシ調整 (クリーニング 共) (材工共)		2	か所			
サッシ・ガラス清掃		41.9	m ²			
AD-4	片開きフラッシュ W900×H900 シルバー	2	か所			
AW-5	引き違い窓 W3520×H900 シルバー	2	か所			

建築工事						
外壁改修			改修			
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
取付工事費	SD-1共	1	式			
搬入費	SD-1共	1	式			
登はん訓練板設置	T1ﾊﾞﾆｰ t15 + ｳﾙｷﾞﾝ ｳﾙﾄﾞ t8 下地100x100/2 共	70.4	m ²			
ｱﾙﾐｱﾝｸﾞﾙ設置	5×50×4000 ｼｬｰ -	26.1	m			
ｶｰｶﾞﾙﾊﾞﾆｰﾐ鋼板 葺 (材工共)	かわら棒葺 厚さ0.40mm 心木無し、通吊子	27.2	m ²			
煙道壁面設置	T1ﾊﾞﾆｰ t15 下地共	100	m ²			
室名札設置	平付81×303 ｱｸﾘﾙ 枠SUS	1	か所			
警備会社札設置	平付201×203 ｱｸﾘﾙ 枠SUS	1	か所			
室名(手洗い)札 設置	平付150×300 ｱｸﾘﾙ 枠SUS	1	か所			
訓練用番号表示板 DP塗装	鉄板 両面 下地調整RB種 下塗り 変性ｱﾎﾞｷﾞ樹脂ﾌﾞﾗｲﾏｰ2回 上塗り等級 1級 既存塗膜除去共	2	か所			
名称看板設置	平付300×900 ｱｸﾘﾙ	1	か所			
掲示板設置	ﾏｸﾞﾈｯﾄﾎﾞｰﾄﾞ 900×1800 ｱﾙﾐ枠ｱﾙﾐ仕処理 掲示板鉄複合板ｱｸﾘﾙ焼き付け塗装	2	か所			
【油脂庫】						
壁改修下地調査費		31	m ²			
外壁高圧水洗い (手間・損料共)	12MPA(120kg/cm ²)	31	m ²			
ｺﾝｸﾘｰﾄひび割れ部 ｱﾎﾞｷﾞ樹脂ｼｰﾙ (材工共)	幅10mm	6	m			
ｺﾝｸﾘｰﾄひび割れ部 (ｳｻﾞｰｼｰﾘﾝｸﾞ 充填) (材工共)	ﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ 10×10～15mm ﾎﾞｰﾘﾝｸﾞ ｳｰﾙｽﾞ ｳｰﾙｽﾞ ｳｰﾙｽﾞ ｳｰﾙｽﾞ	4	m			
欠損部処理 (材工共)	幅100mm、長さ100mm、平均深20mm程度 ﾊﾞｯﾄ、錆落ﾌﾞﾗｯｼﾝｸﾞ、ｱﾎﾞｷﾞ樹脂ﾎﾞｰﾙ埋	11	か所			

建築工事		外壁改修		改修		
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
既存塗膜除去部 下地調整費	コンクリート面 屋内外 C-1	2	m ²			
可とう形改修 塗材 E	シリコン系 薄付け仕上	24.2	m ²			
複層塗材 E	コンクリート面 ゆず肌状 珪藻土塗り シリコン系 水系 つやあり 上塗2回 下地調整費(C-1)共	2.7	m ²			
基礎巾木用塗料	下塗1回・主材塗2回 下地調整C-1塗り共	4.1	m ²			
波形スレート(無石綿) 葺 (材工共)	屋根、大波板(フック止め)	25.6	m ²			
波形スレート(無石綿) 役物 (材工共)	けらば(大波用)	8	m			
波形スレート(無石綿) 役物 (材工共)	面戸(大波用)	7.1	m			
水切り役物 (材工共)		7.1	m			
建具廻り取外補修		1	式			
SD-1	親子開きドア W1300×H1800	1	か所			
EXP.J 新設	外壁+外壁 S05-AEW アルミ製 クリアランス50	6	m			
硬質ポリ塩化ビニル管とい(カー)	径100	3	m			
軒樋	角樋 塩ビ製 120型	7.1	m			
室名札設置	平付81×303 アクリル 枠SUS	1	か所			
危険物標識設置	平付250×500×1 硬質エポキシ ラミネート加工	1	か所			
消火器BOX		1	個			

[illegible]

[illegible]

[illegible]

建築工事						
防水改修			改修			
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
【屋上】						
防水下地高圧水洗 (手間・損料共)	120kg/cm2	253	m ²			
伸縮目地撤去及び パッキン材挿入 (材工共)	ポリアレタン・シリコン・絶縁テープ 共	124	m			
防水下地調整 樹脂珪藻土金こて (材工共)	厚さ 2mm	253	m ²			
コンクリート・珪藻土 ケレン (材工共)	一般塗膜 2種ケレン	30	m ²			
横断線上皿撤去	削り、珪藻土補修共	4	か所			
改修用ドレン (材工共)	横引き 鉛製100φ用 プラスチックドレーン共	4	か所			
手すり根元支柱 コンクリート	金属ブラケット共	49	か所			
高強度珪藻土塗膜防 水	平場部 手塗高強度珪藻土塗膜防水材 通気絶縁工法X-1H同等高耐久シリコン 保護塗料	175	m ²			
防滑性珪藻土床シート 張り	平面部 田島ルフィング(株)GRAN_Gio同等 品	175	m ²			
高強度珪藻土塗膜防 水	立上部 手塗高強度珪藻土塗膜防水材 通気絶縁工法X-1H同等高耐久シリコン 保護塗料(立上り仕様)	29.4	m ²			
高強度珪藻土塗膜防 水	笠木部 手塗高強度珪藻土塗膜防水材 通気絶縁工法X-1H同等高耐久シリコン 保護塗料(立上り仕様)	36.2	m ²			
高強度珪藻土塗膜防 水	底部 通気絶縁工法X-1H同等 高耐久シリコン保護塗料(立上り仕様)	12.8	m ²			
脱気筒新設	立上り用	7	か所			
端部シリコン	一般部 ポリアレタン系(PU-2) 15×10	1	式			
訓練用マーク	東日本塗料(株)塗替えブラケット + イコトップ 同等品	1	式			
底部アンクル撤去・ 新設		6.2	m			
【外部廊下】						
防水下地高圧水洗 (手間・損料共)	120kg/cm2	41	m ²			

[illegible]

[illegible]

建築工事		直接仮設				
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
養生		1	式			別紙 00-0001
養生(外壁改修)		212	m ²			
計						
整理清掃後片付け		1	式			別紙 00-0002
整理清掃後片付け (外壁改修)		212	m ²			
計						
枠組本足場 (手すり先行方式)	W900 防水含む	1	式			別紙 00-0003
枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠 900×1700 布枠500+240 掛払い手間 12m未満 - -	586	m ²			
枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠 900×1700 布枠500+240 基本料 修理費含む 12m未満 - -	586	m ²			
枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠 900×1700 布枠500+240 基本料 修理費含む 12m未満 - -	586	m ²			
計						
安全手すり (手すり先行方式)	枠組本足場用	1	式			別紙 00-0004
安全手すり (手すり先行方式)	枠組本足場用 掛払い手間 -	111	m			
安全手すり (手すり先行方式)	枠組本足場用 供用1日賃料 修理費含む -	111	m			
安全手すり (手すり先行方式)	枠組本足場用 基本料 修理費含む -	111	m			
計						

[illegible]

[illegible]

建築工事		直接仮設				
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
仮設材運搬		1	式			別紙 00-0010
仮設材運搬 (杵組本足場) (手すり先行方式)	建杵幅900(二枚布)	586	m ²			
仮設材運搬 (安全てすり)	杵組本足場用(手すり先行方式)	111	m			
仮設材運搬 (シート・ネット類)		586	m ²			
仮設材運搬 (小幡ネット)		111	m			
仮設材運搬 (養生防護棚)	杵組本足場用	4.3	m			
仮設材運搬 (金網式養生柵)		200	m ²			
計						
養生		1	式			別紙 00-0011
養生(外壁改修)		50	m ²			
計						
整理清掃後片付け		1	式			別紙 00-0012
整理清掃後片付け (外壁改修)		50	m ²			
計						

建築工事		直接仮設				
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
枠組本足場 (手すり先行方式)	W900 防水含む	1	式			別紙 00-0013
枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠 900×1700 布枠500+240 掛払い手間 12m未満 - -	46.2	m ²			
枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠 900×1700 布枠500+240 基本料 修理費含む 12m未満 - -	46.2	m ²			
枠組本足場 (手すり先行方式)	建枠 900×1700 布枠500+240 基本料 修理費含む 12m未満 - -	46.2	m ²			
計						
安全手すり (手すり先行方式)	枠組本足場用	1	式			別紙 00-0014
安全手すり (手すり先行方式)	枠組本足場用 掛払い手間 -	15.4	m			
安全手すり (手すり先行方式)	枠組本足場用 供用1日賃料 修理費含む -	15.4	m			
安全手すり (手すり先行方式)	枠組本足場用 基本料 修理費含む -	15.4	m			
計						
金網式養生枠		1	式			別紙 00-0026
金網式養生枠	掛払い手間 - -	27.7	m ²			
金網式養生枠	基本料 修理費含む - -	27.7	m ²			
金網式養生枠	賃料 修理費含む	27.7	m ²			
計						

[illegible]

建築工事 直接仮設						
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
仮設材運搬		1	式			別紙 00-0018
仮設材運搬 (枠組本足場) (手すり先行方式)	建枠幅900(二枚布)	46.2	m ²			
仮設材運搬 (安全てすり)	枠組本足場用(手すり先行方式)	15.4	m			
仮設材運搬 (シート・ネット類)		46.2	m ²			
仮設材運搬 (小幡ネット)		15.4	m			
仮設材運搬 (金網式養生枠)		27.7	m ²			
計						
墨出し (防水改修)		1	式			別紙 00-0019
墨出し (屋上防水改修)		294	m ²			
計						
養生 (防水改修)		1	式			別紙 00-0020
養生 (屋上防水改修)	露出防水・簡易防水(塗膜・シート)	294	m ²			
計						
整理清掃後片付け (防水改修)		1	式			別紙 00-0021
整理清掃後片付け (屋上防水改修)	露出防水・簡易防水(塗膜・シート)	294	m ²			
計						

建築工事						
発生材処理		積込み・運搬・処分				
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
発生材積込		1	式			別紙 00-0022
発生材積込み	金属類 人力	1.7	m3			
発生材積込み	木材類 人力	4.5	m3			
発生材積込み	混合廃棄物 人力	2	m3			
発生材積込み	石綿含有廃棄物 人力	0.1	m3			
計						
発生材運搬		1	式			別紙 00-0023
撤去材運搬	ダンプトラック 2t積級 人力積込 金属類 DID区間有り 23.0km以下	1.7	m3			
撤去材運搬	ダンプトラック 2t積級 人力積込 木材類 DID区間有り 23.0km以下	4.5	m3			
撤去材運搬	ダンプトラック 2t積級 人力積込 混廃類 DID区間有り 23.0km以下	2	m3			
撤去材運搬	ダンプトラック 2t積級 人力積込 石綿類 DID区間有り	1	台			
計						
発生材処分		1	式			別紙 00-0024
発生材処分	木くず類	4.5	m3			
発生材処分	金属くず	1.7	m3			
発生材処分	石綿含有産業廃棄物(安定型)	0.1	m3			
発生材処分	安定型混合廃棄物	2	m3			
計						

現場説明書

1. 工事名称 松戸市消防訓練センター管理棟外壁改修工事

2. 工事場所 松戸市八ヶ崎四丁目50番地の2

3. 説明事項

<一般事項>

- ・ 工事期間中は現場内の整理整頓及び敷地周辺環境に配慮すること。
- ・ 契約後、各施工計画書及び施工図等は遅滞なく作成し承諾を得ること。
- ・ 騒音、振動発生する作業を行う場合は事前に施設管理者と十分協議し作業を行うこと。
- ・ 関連法規を遵守し、安全に対して最大限に配慮し工事中の事故防止に努めること。
- ・ 当該建物の工事範囲外は工事期間中も利用できるようにすること。
- ・ 屋上及び登はん訓練板部の救助大会用マーキングは、大会実施要領で決められた寸法のため、位置出しの際に必ず監督職員及び施設管理者と協議をすること。
- ・ 別途、電気設備改修工事が発注される予定のため、工程及び資材置場等の調整を図ること。

<工程について>

- ・ 工事の日程等は、施設管理者および関係者に事前に周知を図ること。

<仮設について>

- ・ 交通誘導員等を適宜配置し、施設利用者等の事故防止に努めること。
- ・ 該当建物の工事範囲外は工事期間中も利用されるため、利用者を優先し、安全に配慮した動線を確保した上での仮設計画を立てること。

<週休2日制適用工事について>

- ・ 本工事は、通期の週休2日に取り組むことを指定する週休2日工事（発注者指定方式）である。
- ・ 受注者は、現場閉所（休息）による週休2日工事として取り組むこと。
なお、予定価格については通期の4週8休達成相当の経費を補正している。
- ・ 週休2日制の実施にあたっては、「松戸市営繕工事週休2日工事試行実施要領」に基づき行うこと。

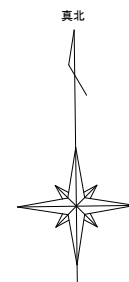
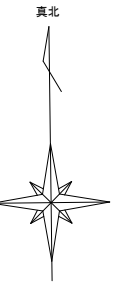
<情報共有システム対象工事について>

- ・ 本工事は、情報共有システムの活用を試行する工事である。受発注者間の協議により利用の可否を決定する。実施にあたっては「松戸市営繕工事情報共有システム試行要領」に基づくものとする。

<注意事項>

- ・ 提出書類は松戸市建築工事提出書類等一覧表による。
- ・ 検査・立会は松戸市建築工事検査・立会一覧表による。
- ・ 落札者は契約締結後、書式データ・図面データ等をお渡しするのでCD-RW等を建築保全課へ持参すること。

松戸市消防訓練センター管理棟外壁改修工事

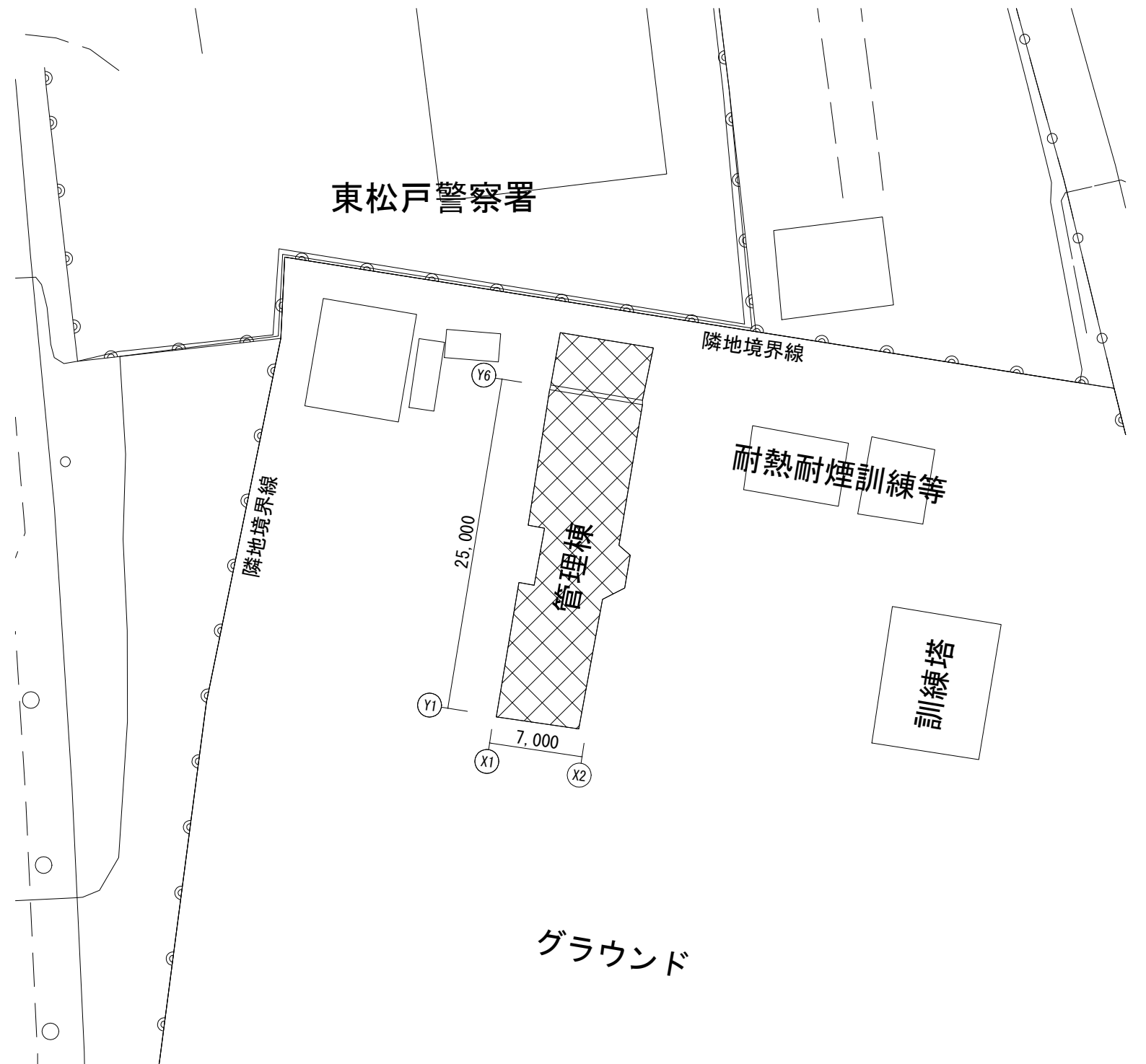


工事場所：松戸市八ヶ崎四丁目50番地の2

案内図 S=1:2500

<凡例>

：工事場所を示す



配置図 S=1:200

<凡例>

：工事箇所を示す

工事名	松戸市消防訓練センター管理棟外壁改修工事		
図面名	案内図・配置図		
作成年月日	令和 8年 7月 日	変更年月日	
縮尺	1：2500 1：200	図面番号	A-01
松戸市 街づくり部 建築保全課			

[illegible]

[illegible]

③ 防水改修工事	●11 とい といその他の材種 ○配管用鋼管 ●硬質ポリ塩化ビニル管 ●ルーフレッドレン ○表面処理鋼板（表面及び裏面の塗膜の種類 ○） ルーフドレンの種類及び呼び <table border="1"> <tr> <th>種別</th><th>呼び</th><th>施工箇所</th></tr> <tr> <td>○ろく屋根用たて形Ⅰ型</td><td>※ねじ込み式</td><td>○80 ○100 ○125 ○150</td></tr> <tr> <td>●ろく屋根用横形Ⅰ型</td><td>●ねじ込み式</td><td>○80 ●100 ○125 ○150</td></tr> <tr> <td>○バルコニー中継用</td><td>※ねじ込み式</td><td>○50 ○80 ○100</td></tr> <tr> <td></td><td>○差し込み式</td><td>○50 ○75 ○100</td></tr> <tr> <td>●バルコニー用</td><td>※ねじ込み式</td><td>○50 ○80 ○100</td></tr> <tr> <td></td><td>●差し込み式</td><td>○50 ●75 ○100</td></tr> </table> とい受金物の材種、形状及び取付け間隔 ●改修標準仕様書表3.8.2による ○ 足金物の材種、形状及び取付け間隔 ●改修標準仕様書表3.8.2による ○ 多雪地域の場合の軒どいの取付け間隔 ※0.5mm 以下 防露材のホルムアルデヒド放散量 ■F☆☆☆☆ 既存のといその他の撤去、降雨等に対する養生方法 ※図示 ○ 鋼管製といの防露巻き ●改修標準仕様書表3.8.4による ○ たてどい受金物の取付け ●図示 ○ ルーフドレンの取付け ●水はけよく、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填 ●12 アルミニウム製 笠木 <table border="1"> <tr> <th>種類</th><th>●オープン形式（●押出250形 ○押出300形 ○押出350形） ○板材折曲げ形（○ オープン形式 ○ シール形式） 本体幅（ ）mm 板厚（※2.0mm ○ mm）</th></tr> <tr> <td>表面処理 種別（ ）種 色合 ●標準色（ ） ○特注色（ ） 既存笠木等の撤去 ●行う（範囲 ●図示 ○ 行わない） ○ 行わない 下地補修の工法 ※図示 ○ 板材折曲げ形の笠木の取付方法 ※図示 ○ 笠木の固定金具の工法等 1-4 適用区分による風圧力の（●1 ○1.15 ○1.3）倍の風圧力に対応した工法</td></tr> </table>	種別	呼び	施工箇所	○ろく屋根用たて形Ⅰ型	※ねじ込み式	○80 ○100 ○125 ○150	●ろく屋根用横形Ⅰ型	●ねじ込み式	○80 ●100 ○125 ○150	○バルコニー中継用	※ねじ込み式	○50 ○80 ○100		○差し込み式	○50 ○75 ○100	●バルコニー用	※ねじ込み式	○50 ○80 ○100		●差し込み式	○50 ●75 ○100	種類	●オープン形式（●押出250形 ○押出300形 ○押出350形） ○板材折曲げ形（○ オープン形式 ○ シール形式） 本体幅（ ）mm 板厚（※2.0mm ○ mm）	表面処理 種別（ ）種 色合 ●標準色（ ） ○特注色（ ） 既存笠木等の撤去 ●行う（範囲 ●図示 ○ 行わない） ○ 行わない 下地補修の工法 ※図示 ○ 板材折曲げ形の笠木の取付方法 ※図示 ○ 笠木の固定金具の工法等 1-4 適用区分による風圧力の（●1 ○1.15 ○1.3）倍の風圧力に対応した工法	●シール工法 ○パテ状エポキシ樹脂 ●可とう性エポキシ樹脂 ●2 欠損部改修工法 ○1 既存モルタル塗りの撤去 ○行う（ ※全面 ○図示の範囲） ●2 ひび割れ部改修工法 ○行う（ ※全面 ○図示の範囲） ●3 欠損部改修工法	○3 ひび割れ部改修工法 改修箇所 ※既存タイル張り面 ○既存タイル撤去面（ ○コンクリート面 ○モルタル面 ） ○ 樹脂注入工法 <table border="1"> <tr> <th>工法の種類</th><th>ひび割れ幅(mm)</th><th>注入口間隔(mm)</th><th>注入量 (ml/m)</th></tr> <tr> <td>※自動式低圧※ 杉樹脂注入工法</td><td>0.2以上～1.0 未満</td><td>※200～300 ○</td><td>○130 ○</td></tr> <tr> <td>○手動式※ 杉樹脂注入工法</td><td>0.2以上～0.3 未満</td><td>○50 ～100 ○</td><td>○40 ○</td></tr> <tr> <td>○差込式※ 杉樹脂注入工法</td><td>0.3以上～0.5 未満</td><td>○100～200 ○</td><td>○70 ○</td></tr> <tr> <td>○機械式※ 杉樹脂注入工法</td><td>0.5以上～1.0 以下</td><td>○150～250 ○</td><td>○130 ○</td></tr> </table> 注入状況の確認方法 ※コアの抜き取りを行う 抜き取り個数（ ※長さ500mmごと及びその端数につき1個 ○ ） 抜き取り部の補修方法 ※図示 ○ ○4 欠損部改修工法 ●リカットシール材充填工法 ●シーリング材 充填材料の種類 ●1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ シーリング材のうえにポリマーセメントモルタルの充填 ●行う ○行わない ○可とう性エポキシ樹脂 ●シール工法 ○パテ状エポキシ樹脂 ●可とう性エポキシ樹脂	工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量 (ml/m)	※自動式低圧※ 杉樹脂注入工法	0.2以上～1.0 未満	※200～300 ○	○130 ○	○手動式※ 杉樹脂注入工法	0.2以上～0.3 未満	○50 ～100 ○	○40 ○	○差込式※ 杉樹脂注入工法	0.3以上～0.5 未満	○100～200 ○	○70 ○	○機械式※ 杉樹脂注入工法	0.5以上～1.0 以下	○150～250 ○	○130 ○	●1 既存塗膜等の除去及び下地処理 ●2 下地調整塗材 ●3 仕上塗材仕上げ 新規仕上塗材の種類 ○薄付け仕上塗材 <table border="1"> <tr> <th>種類（呼び名）</th><th>防火材料</th><th>仕上げの形状及び工法等</th></tr> <tr> <td>○外装薄塗材Si</td><td>○</td><td>○砂壁状</td></tr> <tr> <td>○可とう形外装薄塗材Si</td><td>○</td><td>○ゆず肌状（○吹付け ○ローラー塗り）</td></tr> <tr> <td>○外装薄塗材E</td><td>○</td><td>○さざ波状 ○平たん状</td></tr> <tr> <td>○可とう形外装薄塗材E</td><td>○</td><td>○凹凸状（○吹付け ○こて塗り）</td></tr> <tr> <td>○防水形外装薄塗材E</td><td>○</td><td>○着色骨材砂壁状（○吹付け ○こて塗り）</td></tr> <tr> <td>○外装薄塗材S</td><td>○</td><td>○砂壁状じゅらく ○京壁状じゅらく</td></tr> </table> ○厚付け仕上塗材 <table border="1"> <tr> <th>種類（呼び名）</th><th>防火材料</th><th>仕上げの形状及び工法等</th></tr> <tr> <td>○外装厚塗材C</td><td>○</td><td>○吹放し ○凸部処理 ○平たん状</td></tr> <tr> <td>○外装厚塗材Si</td><td>○</td><td>○凹凸状 ○ひき起こし ○かき落とし</td></tr> <tr> <td>○外装厚塗材E</td><td>○</td><td>上塗材 ○適用する ○適用しない</td></tr> </table>	種類（呼び名）	防火材料	仕上げの形状及び工法等	○外装薄塗材Si	○	○砂壁状	○可とう形外装薄塗材Si	○	○ゆず肌状（○吹付け ○ローラー塗り）	○外装薄塗材E	○	○さざ波状 ○平たん状	○可とう形外装薄塗材E	○	○凹凸状（○吹付け ○こて塗り）	○防水形外装薄塗材E	○	○着色骨材砂壁状（○吹付け ○こて塗り）	○外装薄塗材S	○	○砂壁状じゅらく ○京壁状じゅらく	種類（呼び名）	防火材料	仕上げの形状及び工法等	○外装厚塗材C	○	○吹放し ○凸部処理 ○平たん状	○外装厚塗材Si	○	○凹凸状 ○ひき起こし ○かき落とし	○外装厚塗材E	○	上塗材 ○適用する ○適用しない																							
種別	呼び	施工箇所																																																																																																						
○ろく屋根用たて形Ⅰ型	※ねじ込み式	○80 ○100 ○125 ○150																																																																																																						
●ろく屋根用横形Ⅰ型	●ねじ込み式	○80 ●100 ○125 ○150																																																																																																						
○バルコニー中継用	※ねじ込み式	○50 ○80 ○100																																																																																																						
	○差し込み式	○50 ○75 ○100																																																																																																						
●バルコニー用	※ねじ込み式	○50 ○80 ○100																																																																																																						
	●差し込み式	○50 ●75 ○100																																																																																																						
種類	●オープン形式（●押出250形 ○押出300形 ○押出350形） ○板材折曲げ形（○ オープン形式 ○ シール形式） 本体幅（ ）mm 板厚（※2.0mm ○ mm）																																																																																																							
表面処理 種別（ ）種 色合 ●標準色（ ） ○特注色（ ） 既存笠木等の撤去 ●行う（範囲 ●図示 ○ 行わない） ○ 行わない 下地補修の工法 ※図示 ○ 板材折曲げ形の笠木の取付方法 ※図示 ○ 笠木の固定金具の工法等 1-4 適用区分による風圧力の（●1 ○1.15 ○1.3）倍の風圧力に対応した工法																																																																																																								
工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量 (ml/m)																																																																																																					
※自動式低圧※ 杉樹脂注入工法	0.2以上～1.0 未満	※200～300 ○	○130 ○																																																																																																					
○手動式※ 杉樹脂注入工法	0.2以上～0.3 未満	○50 ～100 ○	○40 ○																																																																																																					
○差込式※ 杉樹脂注入工法	0.3以上～0.5 未満	○100～200 ○	○70 ○																																																																																																					
○機械式※ 杉樹脂注入工法	0.5以上～1.0 以下	○150～250 ○	○130 ○																																																																																																					
種類（呼び名）	防火材料	仕上げの形状及び工法等																																																																																																						
○外装薄塗材Si	○	○砂壁状																																																																																																						
○可とう形外装薄塗材Si	○	○ゆず肌状（○吹付け ○ローラー塗り）																																																																																																						
○外装薄塗材E	○	○さざ波状 ○平たん状																																																																																																						
○可とう形外装薄塗材E	○	○凹凸状（○吹付け ○こて塗り）																																																																																																						
○防水形外装薄塗材E	○	○着色骨材砂壁状（○吹付け ○こて塗り）																																																																																																						
○外装薄塗材S	○	○砂壁状じゅらく ○京壁状じゅらく																																																																																																						
種類（呼び名）	防火材料	仕上げの形状及び工法等																																																																																																						
○外装厚塗材C	○	○吹放し ○凸部処理 ○平たん状																																																																																																						
○外装厚塗材Si	○	○凹凸状 ○ひき起こし ○かき落とし																																																																																																						
○外装厚塗材E	○	上塗材 ○適用する ○適用しない																																																																																																						
④ 屋根改修工事	●1 長尺金属板葺 <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th><th>板及びコイルの種類</th><th>塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号</th><th>厚さ(mm)</th><th>屋根葺形式</th><th>備考</th></tr> <tr> <td>煙道</td><td>●JIS G 3322の屋根用着色 ●有 ○</td><td>●5類（AZ150）○</td><td>●0.4 ○0.5 ○</td><td>○心木なし瓦葺 ●立平葺 ○蟻掛葺 横葺 ○</td><td></td></tr> </table> 下葺材料 ○アスファルトルーフィング940 ●改質アスファルトルーフィング下葺材（ ●一般タイプ ○複層基材タイプ ○粘着層付タイプ ） 工法 1-4 適用区分による風圧力の（●1 ○1.15 ○1.3）倍の風圧力に対応した工法 管止め ○設置する（形状及施工箇所 ※図示 ○ 設置しない） ●設置しない ●2 折板葺 <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th><th>形式</th><th>山高、山ピッチによる区分</th><th>耐力による区分</th><th>材料による区分</th><th>厚さ(mm)</th><th>軒先面戸板</th><th>耐火性能</th></tr> <tr> <td>油脂庫</td><td>●重ね形 ○はせ締め形 ○かん合形 ○</td><td></td><td>（ ）種 ○</td><td>※鋼板製 ○7mm以上合金板製 ○</td><td>●有 ○無し ○</td><td>○30分 ●無し</td><td></td></tr> </table> 材料 鋼板の種類（※JIS G 3322の屋根用（着色 ○有 ○ ）） 塗膜の耐久性の種類、めっき付着量（○5類（AZ150） ○ ） 断熱材張り ○行う（種別： 、厚さ(mm)： 、防火性能： 時間） ●行わない 耐雪性能に対応した工法の適用 ○適用する ●適用しない 工法 1-4 適用区分による風圧力の（●1 ○1.15 ○1.3）倍の風圧力に対応した工法 折板のくらは納め ●くらは包みによる方法 ○ 管止め ●設置する（形状及施工箇所 ※図示 ○ 設置しない） ○設置しない	施工箇所	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ(mm)	屋根葺形式	備考	煙道	●JIS G 3322の屋根用着色 ●有 ○	●5類（AZ150）○	●0.4 ○0.5 ○	○心木なし瓦葺 ●立平葺 ○蟻掛葺 横葺 ○		施工箇所	形式	山高、山ピッチによる区分	耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板	耐火性能	油脂庫	●重ね形 ○はせ締め形 ○かん合形 ○		（ ）種 ○	※鋼板製 ○7mm以上合金板製 ○	●有 ○無し ○	○30分 ●無し		●1 長尺金属板葺 ●4 浮き部改修工法 <table border="1"> <tr> <th>工法の種類</th><th>アンカーピンの本数(本/m)</th><th>注入口の箇所数(箇所/m)</th><th>注入量(ml/箇所)</th></tr> <tr> <td>●アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td><td>●16 ○</td><td>※25 ○</td><td>※25</td></tr> <tr> <td>○アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td><td>○13 ○</td><td>※20 ○</td><td>※20</td></tr> <tr> <td>○アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</td><td>○13 ○</td><td>※20 ○</td><td>※20</td></tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td><td>※9 ○</td><td>※16 ○</td><td>※25</td></tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td><td>※9 ○</td><td>※16 ○</td><td>※25</td></tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</td><td>※9 ○</td><td>※16 ○</td><td>※50</td></tr> <tr> <td>○充填工法</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>○モルタル塗替え工法</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> アンカーピンの材質 ●ステンレス鋼(SUS304)呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの ○ 注入口付アンカーピンの材質 ※ステンレス鋼(SUS304)呼び径外径6mm程度 ○ 注入工法用材料 ○ポリマーセメントスラリー <table border="1"> <tr> <th>広がり速度(cm/s)</th><th>長さ変化量(収縮)(%)</th><th>引張接着性(材齢28日)(N/mm2)</th><th>曲げ性能(材齢28日)(N/mm2)</th><th>吸水性(72時間)(%)</th><th>耐久性(劣化曲げ強さ)(N/mm2)</th></tr> <tr> <td>3以上</td><td>3以下</td><td>0.5以上</td><td>5.0以上</td><td>15以下</td><td>5.0以上</td></tr> </table> 保水係数 0.35～0.55 粘着係数 0.50～1.00 充填工法用材料 ○エポキシ樹脂モルタル ○ポリマーセメントモルタル モルタル塗替え工法用材料 ○現場調合材料 セメントは、改修標準仕様書8.2.5による ○既調合材料（ ） 既製目地材 ○使用する（形状 ○図示 ○ ） 仕上厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※図示 ○	工法の種類	アンカーピンの本数(本/m)	注入口の箇所数(箇所/m)	注入量(ml/箇所)	●アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	●16 ○	※25 ○	※25	○アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	○13 ○	※20 ○	※20	○アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	○13 ○	※20 ○	※20	○注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9 ○	※16 ○	※25	○注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9 ○	※16 ○	※25	○注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※9 ○	※16 ○	※50	○充填工法				○モルタル塗替え工法				広がり速度(cm/s)	長さ変化量(収縮)(%)	引張接着性(材齢28日)(N/mm2)	曲げ性能(材齢28日)(N/mm2)	吸水性(72時間)(%)	耐久性(劣化曲げ強さ)(N/mm2)	3以上	3以下	0.5以上	5.0以上	15以下	5.0以上	○5 浮き部改修工法 <table border="1"> <tr> <th>工法の種類</th><th>アンカーピンの本数(本/m)</th><th>注入口の箇所数(箇所/m)</th><th>注入量(ml/箇所)</th></tr> <tr> <td>○アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td><td>※16 ○</td><td>※25 ○</td><td>※25</td></tr> <tr> <td>○アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td><td>※13 ○</td><td>※20 ○</td><td>※25</td></tr> <tr> <td>○アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</td><td>※13 ○</td><td>※20 ○</td><td>※50</td></tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td><td>※9 ○</td><td>※16 ○</td><td>※25</td></tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td><td>※9 ○</td><td>※16 ○</td><td>※25</td></tr> <tr> <td>○注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセ</td></tr></table>	工法の種類	アンカーピンの本数(本/m)	注入口の箇所数(箇所/m)	注入量(ml/箇所)	○アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16 ○	※25 ○	※25	○アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13 ○	※20 ○	※25	○アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※13 ○	※20 ○	※50	○注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9 ○	※16 ○	※25	○注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9 ○	※16 ○	※25	○注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセ
施工箇所	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ(mm)	屋根葺形式	備考																																																																																																			
煙道	●JIS G 3322の屋根用着色 ●有 ○	●5類（AZ150）○	●0.4 ○0.5 ○	○心木なし瓦葺 ●立平葺 ○蟻掛葺 横葺 ○																																																																																																				
施工箇所	形式	山高、山ピッチによる区分	耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板	耐火性能																																																																																																	
油脂庫	●重ね形 ○はせ締め形 ○かん合形 ○		（ ）種 ○	※鋼板製 ○7mm以上合金板製 ○	●有 ○無し ○	○30分 ●無し																																																																																																		
工法の種類	アンカーピンの本数(本/m)	注入口の箇所数(箇所/m)	注入量(ml/箇所)																																																																																																					
●アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	●16 ○	※25 ○	※25																																																																																																					
○アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	○13 ○	※20 ○	※20																																																																																																					
○アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	○13 ○	※20 ○	※20																																																																																																					
○注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9 ○	※16 ○	※25																																																																																																					
○注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9 ○	※16 ○	※25																																																																																																					
○注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※9 ○	※16 ○	※50																																																																																																					
○充填工法																																																																																																								
○モルタル塗替え工法																																																																																																								
広がり速度(cm/s)	長さ変化量(収縮)(%)	引張接着性(材齢28日)(N/mm2)	曲げ性能(材齢28日)(N/mm2)	吸水性(72時間)(%)	耐久性(劣化曲げ強さ)(N/mm2)																																																																																																			
3以上	3以下	0.5以上	5.0以上	15以下	5.0以上																																																																																																			
工法の種類	アンカーピンの本数(本/m)	注入口の箇所数(箇所/m)	注入量(ml/箇所)																																																																																																					
○アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16 ○	※25 ○	※25																																																																																																					
○アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13 ○	※20 ○	※25																																																																																																					
○アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※13 ○	※20 ○	※50																																																																																																					
○注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9 ○	※16 ○	※25																																																																																																					
○注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9 ○	※16 ○	※25																																																																																																					
○注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセ																																																																																																								

5

建築改修工事

○ 1 改修工法

建具の種類

かぶせ工法

撤去工法

適用箇所

○アルミニウム製建具

○

○

○建具表による ○

○樹脂製建具

○

○

○建具表による ○

○鋼製建具

○外部

○

○建具表による ○

○

○内部

○

○建具表による ○

○鋼製軽量建具

○

○

○建具表による ○

○ステンレス製建具

○

○

○建具表による ○

○木製建具

○

○

○建具表による ○

新規に建具を設ける場合

壁部分の開口の開け方

○図示 ○

新規建具周囲の補修工法及び範囲

○図示 ○

建具周囲のシーリング

改修標準仕様書3章7節による

○ 2 防火戸

防火戸の指定

○指定する（適用箇所 ○建具表による ○） ○指定しない

防火戸の自動閉鎖機構及び防火戸とヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動

○連動させる（○建具表による ○） ○連動しない

○ 3 見本の製作等

建具見本の製作

○行う（建具符号： ）

○行わない

建具見本制作の目的等（ ）

特殊な建具の仮組

○行う（建具符号： ）

○行わない

○ 4 防犯建物部品

○適用する（○建具表による ○）

○適用しない

○ 5 アルミニウム製建具

性能値等

耐風圧性の等級 ○ （建具符号：○建具表による ○）

気密性の等級 ○ （建具符号：○建具表による ○）

水密性の等級 ○ （建具符号：○建具表による ○）

外部に面する建具の種別

種別	耐風圧性	気密性	水密性	施工箇所
○A種	S-4	A-3	Ⅱ-4	○図示
○B種	S-5			○図示
○C種	S-6	A-4	Ⅱ-5	○図示

○防音ドア、防音サッシ

遮音性の等級（ ）

（建具符号：○建具表による ○）

○断熱ドア、断熱サッシ

断熱性の等級（ ）

（建具符号：○建具表による ○）

○枠の見込み寸法

○建具表による ○

耐震性能

RC壁に設置する特定室等及び避難経路の扉

○耐震ドア 面内変形追随性の等級（OD-1：1/300 OD-2：1/120 OD-3：1/100 ）

（建具符号：○建具表による ○）

重量がある扉

以下の設計用震度の地震力及び層間変形角に対して、脱落しないものとする。

なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。

設計用水平震度（K_h）

○1.0 ○

設計用鉛直震度（K_v）

○0.5 ○

（建具符号：○建具表による ○）

材料

アルミニウム材 改修標準仕様書5.2.3(1)による

ステンレス鋼板

○SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 ○

ステンレス製のくつずりの仕上げ

○HL ○

形状及び仕上げ

表面処理

外部に面する建具 種別（改修標準仕様書表5.2.2）

○BB-1 ○BB-2（着色 ○標準色 ○特注色）

屋内の建具 種別（改修標準仕様書表5.2.2）

○BC-1 ○BC-2（着色 ○標準色 ○特注色）

結露水の処理方法

○水貯め式 ○排水式

工法

水切り板、ぜん板

○図示 ○

○ 6 網戸等

種類	材種	線径	網目
○防虫網	○合成樹脂製	○0.25mm以上	○16～18メッシュ
	○ガラス繊維入り合成樹脂製	○	○
	○ステンレス（SUS316）製		
○防鳥網	ステンレス（SUS304）線材	1.5mm	網目寸法15mm

○ 7 樹脂製建具

性能値等

耐風圧性の等級 ○ （建具符号：○建具表による ○）

気密性の等級 ○ （建具符号：○建具表による ○）

水密性の等級 ○ （建具符号：○建具表による ○）

外部に面する建具の種別

種別	耐風圧性	気密性	水密性	施工箇所
○A種	S-4	A-4	Ⅱ-4	○図示
○B種	S-5		Ⅱ-5	○図示
○C種	S-6			○図示

○防音ドア、防音サッシ

遮音性の等級（OT-1 OT-2）

（建具符号：○建具表による ○）

○断熱ドア、断熱サッシ

断熱性の等級（OH-4 OH-5 OH-6 OH-7 OH-8）

（建具符号：○建具表による ○）

外部に面する建具の日射熱取得性の等級

○

枠の見込み寸法

○建具表による ○

材料

樹脂材 改修標準仕様書5.3.3(1)による

ガラス

○複層ガラス ○

ステンレス製のくつずりの仕上げ

○HL ○

形状及び仕上げ

表面色

○標準色 ○特注色

工法

水切り板、ぜん板

○図示 ○

○ 8 鋼製建具

性能値等

簡易気密型ドアセット

○適用する（建具符号：○建具表による ○）

○適用しない

外部に面する建具の耐風圧性

OS-4（建具符号：○建具表による ○）

OS-5（建具符号：○建具表による ○）

OS-6（建具符号：○建具表による ○）

○防音ドア、防音サッシ

遮音性の等級（ ）

（建具符号：○建具表による ○）

○断熱ドア、断熱サッシ

断熱性の等級（ ）

（建具符号：○建具表による ○）

耐震性能

RC壁に設置する特定室等及び避難経路の扉

○耐震ドア 面内変形追随性の等級（OD-1：1/300 OD-2：1/120 OD-3：1/100 ）

（建具符号：○建具表による ○）

重量がある扉

以下の設計用震度の地震力及び層間変形角に対して、脱落しないものとする。

なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。

設計用水平震度（K_h）

○1.0 ○

設計用鉛直震度（K_v）

○0.5 ○

（建具符号：○建具表による ○）

材料

鋼板 改修標準仕様書5.4.3(1)による

ステンレス鋼板

○SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 ○

ステンレス製のくつずりの仕上げ

○HL ○

形状及び仕上げ

鋼板類の厚さ

改修標準仕様書表5.4.2による ○mm（使用箇所： ）

標準型鋼製建具の形式及び寸法

○建具表による ○

○ 9 鋼製軽量建具

性能値等

簡易気密型ドアセット

○適用する（建具符号：建具表による）

○適用しない

○防音ドア、防音サッシ

遮音性の等級（ ）

（建具符号：○建具表による ○）

○断熱ドア、断熱サッシ

断熱性の等級（ ）

（建具符号：○建具表による ○）

耐震性能

RC壁に設置する特定室等及び避難経路の扉

○耐震ドア 面内変形追随性の等級（OD-1：1/300 OD-2：1/120 OD-3：1/100 ）

（建具符号：○建具表による ○）

重量がある扉

以下の設計用震度の地震力及び層間変形角に対して、脱落しないものとする。

なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。

設計用水平震度（K_h）

○1.0 ○

設計用鉛直震度（K_v）

○0.5 ○

（建具符号：○建具表による ○）

材料

鋼板 ○亜鉛めっき鋼板 ○ビニル被覆鋼板 ○カラー鋼板 ○ステンレス鋼板

ステンレス鋼板

○SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 ○

ステンレス製のくつずりの仕上げ

○HL

召合せ、縦小包み板の材質

○鋼板 ○ステンレス鋼板 ○アルミニウム合金

形状及び仕上げ

鋼板類の厚さ

改修標準仕様書表5.5.1による ○mm（使用箇所： ）

標準型鋼製建具の形式及び寸法

○建具表による ○

○10 ステンレス製建具

性能値等

簡易気密型ドアセット

○適用する（建具符号：○建具表による ○）

○適用しない

外部に面する建具の耐風圧性

OS-4（建具符号：○建具表による ○）

OS-5（建具符号：○建具表による ○）

OS-6（建具符号：○建具表による ○）

○防音ドア、防音サッシ

遮音性の等級（ ）

（建具符号：○建具表による ○）

○断熱ドア、断熱サッシ

断熱性の等級（ ）

（建具符号：○建具表による ○）

耐震性能

RC壁に設置する特定室等及び避難経路の扉

○耐震ドア 面内変形追随性の等級（OD-1：1/300 OD-2：1/120 OD-3：1/100 ）

（建具符号：○建具表による ○）

重量がある扉

以下の設計用震度の地震力及び層間変形角に対して、脱落しないものとする。

なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。

設計用水平震度（K_h）

○1.0 ○

設計用鉛直震度（K_v）

○0.5 ○

（建具符号：○建具表による ○）

材料

ステンレス鋼板

○SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 ○

ステンレス製のくつずりの仕上げ

○HL ○

形状及び仕上げ

表面仕上げ

○HL ○鏡面仕上げ ○

ステンレス製のくつずりの仕上げ

○HL程度 ○No.2B程度

工法

ステンレス鋼板の曲げ加工

○普通曲げ ○角出し曲げ

○11 木製建具

建具材の加工、組立時の含水率

○A種 ○

建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放数量

○F☆☆☆☆ ○

○フラッシュ戸

表面材のホルムアルデヒド放数量等

改修標準仕様書5.7.2(2) (f) (a)による ○

○12 建具用金物

金物の種類及び見掛け部の材質等

改修標準仕様書表5.8.1により適用は建具表による ○

金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ

改修標準仕様書表5.8.2による

○建具表による

樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ

改修標準仕様書表5.8.3による

○建具表による

木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ

改修標準仕様書表5.8.4による

○建具表による

木製建具に使用する戸車及びレール

改修標準仕様書表5.8.5による

○建具表による

握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置

○建具表による

○

錠前類

シリンダ錠錠及びシリンダ本錠まり錠（品質 性能、試験方法は別表による）

クローザ類（品質 性能、試験方法は別表による）

○13 鍵

マスターキー

○製作する ○製作しない ○既存のマスターキーに合わせる

その他の鍵の製作本数

○各室3本1組（室名札付き） ○

鍵箱

○無し ○有り

○14 自動ドア開閉装置

引き戸用検出装置の種類及び必要性能項目

○建具表による ○

○

タッチスイッチの種類

○無線式タッチスイッチ

○光線式タッチスイッチ

車椅子使用者用便所スイッチの種類

○大形押しボタンスイッチ

○非接触スイッチ

凍結防止装置

○行う ○行わない

○15 自閉式上吊り引戸装置

性能値等

改修標準仕様書表5.10.1による

○以下による

手動開き力（ ）

手動閉じ力（ ）

閉じ速度の調整（ ）

制動区間（ ）

開閉繰返し（ ）

耐衝撃性（ ）

○16 重量シャッター

シャッターの種類

○管理用シャッター

○外壁用防火シャッター

○屋内用防火シャッター

○防煙シャッター

外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度（ ）Pa

開閉方式の種類

○電動式（手動併用） ○電動式

安全装置

電動式シャッターの急降下制動装置、急降下停止装置

（設置箇所 ○建具表による ○）

電動式シャッターの障害物感知装置

（設置箇所 ○建具表による ○）

屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止装置

（設置箇所 ○建具表による ○）

管理用シャッターのシャッターケース

○設ける ○設けない

スラット及びシャッターケース用鋼板

鋼板の種類

○JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）

○JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）

めっきの付着量

○Z12又はF12 ○

ガイドレール、まぐさ、両掛りに用いる座板及び座板のカバー、両掛りに用いるスイッチボックス類のふたの材質

ステンレス鋼板

○SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 ○

○17 軽量シャッター

開閉方式の種類

○手動式 ○電動式（手動併用）

耐風圧強度（ ）Pa

安全装置

電動シャッターの障害物感知装置

（設置箇所 ○建具表による ○）

スラットの材質の種類

○JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）

めっきの付着量

○Z06又はF06 ○

○JIS G 3322（塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯）

めっきの付着量

○AZ90 ○

スラットの形状

○インターロッキング形 ○オーバーラッピング形

○18 オーバーヘッドドア

セクション材料による区分	風圧力による強さの区分	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材料
○スチールタイプ	○50	○バランス式	○スタンダード形	○溶融亜鉛めっき鋼板
○アルミニウムタイプ	○75	○チェーン式	○ローヘッド形	○ステンレス鋼板
○ファイバークラスタイプ	○100	○電動式	○ハイリフト形	
	○125		○バーチャル形	

電動式オーバーヘッドドアの障害物感知装置（設置箇所 ○建具表による ○）

○19 ガラス

適用は以下によるほか、ガラスの種類、厚さの組み合わせは建具表及び図面による。

○フロート板ガラス

フロート板ガラスの品種及び厚さの呼びによる種類

○型板ガラス

型板ガラスの厚さによる種類

○型板ガラス及び縁入板ガラス

網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類

○合わせガラス

材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ

○平面合わせガラス ○曲面合わせガラス

形状による種類

○I類 ○Ⅱ-1類 ○Ⅱ-2類 ○Ⅲ類

落球衝撃はく離特性及びショットバック衝撃特性による種類

○強化ガラス

形状による種類、材料板ガラスの種類による名称

破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類

○I類 ○Ⅲ類

○熱線吸収ガラス

板ガラスの種類及び厚さによる種類

性能による種類

○1種 ○2種

○複層ガラス

材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ、並びに複層ガラスの厚さ

断熱性による区分

○T1 ○T2 ○T3 ○T4

○T5 ○T6

日射取得性及び日射遮蔽性による区分

○G ○S

封入気体の種類

○空気 ○アルゴン

○熱線反射ガラス

材料板ガラスの種類及び厚さによる種類

日射熱遮へい性による区分

○A種 ○B種

耐久性による区分

○A種 ○B種

（日射熱遮へい性が2種の場合）

○低強度ガラス

材料板ガラスの種類及び厚さによる種類

工事名	松戸市消防訓練センター管理棟外壁改修工事		
図面名	特記仕様書（4）		
作成年月日	令和 8年 7月 日	変更年月日	
縮尺	No Scale	図面番号	A-05
松戸市 街づくり部 建築保全課			

5

建築改修工事

○20 ガラスブロック

ガラスの置め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)
アルミニウム製	○シーリング材 ○グレイジングチャンネル	※建具の製造所の仕様による ○図示 ○
銅製及び銅製軽量	○シーリング材 ○	※建具の製造所の仕様による ○図示 ○
ステンレス製	○シーリング材 ○	※建具の製造所の仕様による ○図示 ○
樹脂製	○グレイジングチャンネル ○	※建具の製造所の仕様による ○図示 ○

[5.14.5]

呼び寸法 (mm)	厚さ (mm)	色調	居地幅 (mm)	伸縮調整目地位置 (mm)	防火性能
○160×160	○95 ○				
○200×200	○95 ○				

壁用金属枠及び補強材 ○図示 ○
力骨 材質 ○ステンレス鋼(SUS304) ○
寸法 ○図示 5mm ○
形状 ○はしご形状横筋及び単筋 ○
化粧目地モルタルの色 (○白 ○グレー)
シーリングの種類 (○SR-1 OPS-1)
金属製化粧カバー 材質 ○ステンレス製 ○アルミニウム製
寸法 ○図示 ○ 形状 ○図示 ○
居地部の横力骨の納まり
※ガラスブロック製造所の仕様による ○図示 ○
工法 1-4 適用区分による風圧力の (○1 ○1.5 ○1.3) 倍の風圧力に対応した工法

種 類	記 号	その他性能
	内貼り用 外貼り用	
○日射調整フィルム [G]	○S C-1 ○S C-2	
○低放射フィルム	○L E	
○衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム	○G 1-1 ○G 1-2	
○相関変位破壊対応ガラス飛散防止フィルム	○G D-1 ○G D-1	
○ガラス貫通防止フィルム	○S F	
品質 JIS A 5759による		

○21 ガラス用フィルム

6

建築改修工事

○1 改修範囲

既存間仕切壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁及び床の改修範囲
※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ○図示
天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井の改修範囲
※壁面より雨側600mm 程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ○図示
既存天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修
※既存のまま ○図示

[6.1.3]

○2 既存床の撤去及び下地補修

ビニル床シート等の除去 ○仕上げ材のみ (接着剤とも)
○下地モルタルとも (○図示の範囲 ○除去範囲全て)
合成樹脂塗床材の除去工法 ○機械的除去工法 ○目荒し工法
改修後の床の清掃範囲 ※室内の改修箇所 ○

[6.2.2]

○3 既存壁の撤去及び下地補修

間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修
※改修標準仕様書4.3.10によるモルタル塗り ○
(全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※図示)

[6.3.2]

○4 施工一般

材料のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆又は改修標準仕様書6.5.2(1)(a)(b)による ○

[6.5.2]

○5 製材 [G]

○JAS 1083-5 製材-第5部に基づく下地用製材

施工箇所	寸法 (mm)	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用
		※2級 ○	※A種 ○B種 ○		○
		※2級 ○	※A種 ○B種 ○		○

○JAS 1083-2 製材-第2部に基づく造作用製材

施工箇所	寸法 (mm)	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用
見え係り面		※上小節 ○	※A種 ○B種 ○		○
見え係り面以外		※小節以上 ○	※A種 ○B種 ○		○

○JAS 1083-6 製材-第6部に基づく広葉樹製材

施工箇所	寸法 (mm)	等級	含水率	保存処理	間伐材等の適用
		※1級 ○	※10%以下 ○A種 ○B種 ○		○
		※1級 ○	※10%以下 ○A種 ○B種 ○		○
		※1級 ○	※10%以下 ○A種 ○B種 ○		○

○JAS 1083 (製材) 以外の製材

施工箇所	寸法 (mm)	材面の品質	防虫処理	含水率	間伐材等の適用
		() 造作材の場合 (※A種 ○B種)	○適用する ○適用しない	※A種 ○B種 ○	○
		() 造作材の場合 (※A種 ○B種)	○適用する ○適用しない	※A種 ○B種 ○	○

○6 造作用修材材 [G]

○「集材材の日本農林規格」による造作用集材材

施工箇所	品名	樹種名	寸法 (mm)	見付け材面	見付け材面の品質	間伐材等の適用
					※1等 ○2等 ※1等 ○2等	○

○「集材材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集材材

施工箇所	品名	樹種名	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ (mm)	見付け材面の品質	見付け材面の品質	間伐材等の適用
					※1等 ○2等 ※1等 ○2等	○	○

○「集材材の日本農林規格」以外の造作用集材材

施工箇所	樹種名	寸法 (mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
				※15%以下 ○	○

○「集材材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集材材

施工箇所	樹種名	寸法 (mm)	化粧薄板の厚さ (mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
					※15%以下 ○	○

○JAS 0701に基づく造作用単板積層材

施工箇所	品名	寸法 (mm)	表面の品質	防虫処理	間伐材等の適用
				○適用する ○適用しない	○

○JAS 0701以外の造作用単板積層材

施工箇所	寸法 (mm)	表面の品質	含水率	防虫処理	間伐材等の適用
			※14%以下 ○	○適用する ○適用しない	○

○JAS 3079に基づく直交集成板

施工箇所	品名	強度等級	種別	接着性能 (使用環境)	樹種名	寸法 (mm)	間伐材等の適用
							○

○「合板の日本農林規格」による普通合板 [G]

施工箇所	厚さ (mm)	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	間伐材等の適用
	※5.5 ○	※1類 ○2類	広葉樹 針葉樹	※2等以上 ○1等 ※C-D以上 ○	○適用する ○適用しない	○

○「合板の日本農林規格」構造用合板 [G]

施工箇所	等級	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	厚さ (mm)	防虫処理	強度等級	間伐材等の適用
	※2級 以上 ○1級	※1類 ○特類	※C-D 以上 ○	※12 以上 ○		○適用する ○適用しない		○ ○適用しない

○「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板 [G]

施工箇所	厚さ (mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理	間伐材等の適用
			○特類 ○1類	○適用する ○適用しない	○

○「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板 [G]

施工箇所	厚さ (mm)	化粧板に使用する単板の樹種名	接着の程度	防虫処理の適用	
			○1類 ○2類	○適用する ○適用しない	

○「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板 [G]

施工箇所	厚さ (mm)	単板の樹種名	接着の程度	化粧加工方法	防虫処理の適用
			○1類 ○2類		○適用する ○適用しない

○パーティクルボード [G]

施工箇所	厚さ (mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分
	※15 ○	※13タイプ ○		※P又はM ○	

○JAS 0360に基づく構造用パネル

施工箇所	寸法 (mm)

○MDF [G]

施工箇所	厚さ (mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分

○9 接合具等

造作材の化粧面の釘打ち
※隠し釘打ち ○釘頭埋め木 ○つづし頭釘打ち ○釘頭隠し
諸金物
※かすがい、座金、端金物、短冊金物
(改修標準仕様書表6.5.3~5に示す程度の市販品 表8.20.1のF種程度の亜鉛めっき)
○ (形状: 寸法: 材質:)

[6.5.3]

○10 接着剤

接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ○

[6.5.3.4]

○11 防虫・防蟻処理

薬剤の加圧注入による防虫・防蟻処理

適用部材	保存処理性能区分
	○K 2 ○K 3 ○K 4
	○K 2 ○K 3 ○K 4
	○K 2 ○K 3 ○K 4

薬剤の塗布等による防虫・防蟻処理

適用部材	処理の方法	薬剤の種類
	○薬剤の製造所の仕様による	※JIS K 1571に適合又は同等品

○薬剤の接着材への混入による防虫、防蟻処理

適用部位 ()

○合板等の加圧注入処理等の適用

適用部位 ()

[6.5.5]

○12 内部間仕切軸組及び床組み

○間仕切軸組に用いる木材の樹種名 (製材を用いる場合)
※杉又は松 ○
○床組みに用いる木材の樹種名 (製材を用いる場合)
※杉又は松 ○

[6.5.6]

○13 窓、出入口その他

○窓、出入口その他に用いる木材の樹種名 (製材を用いる場合)
※吊元杉、水掛りの下枠及び敷居はひのき、その他は松又は杉 ○

[6.5.7]

○14 軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類
屋外 (※25形 ○19形) 屋内 (※19形 ○25形)
屋外の形式及び寸法
野縁受け、つりボルト及びビーンサートの間隔 ○図示 ○900mm
周辺部の端からの間隔 ○図示 ○150mm
野縁の間隔 ○図示 ○
既存の埋込みインサート ○使用する ○使用しない
あと施工アンカーの施工後の確認試験
○行う
試験箇所数 ※屋内の場合、該当箇において3箇所
○ () 箇所
引張試験にて確認する強度
※つりボルト受け等の間隔が900mm程度以下かつ天井面積構成部材等の単位面積あたりの質量が20kg/m²以内の天井の場合は400N程度
○ () N
○行わない
○つりボルトの間隔が900mmを超える場合
補強方法 ※図示 ○
○天井のふところ高が3.0mを超える場合
補強方法 ※図示 ○
○天井下地材における耐震性を考慮した補強
補強箇所 ※図示 ○ 補強方法 ※図示 ○

[6.6.2~4] [表6.6.2]

○15 軽量鉄骨壁下地

スタッド、ランナーの種類
※改修標準仕様書表6.7.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類
○図示 ○
スタッドの高さが5.0mを超える場合 ※図示 ○
出入口及びこれに準ずる開口部の補強 ※標準仕様書 6.7.4(5) による ○

[6.7.3.4]

○16 ビニル床シート [G]

種類の記号

色 柄	厚さ (mm)	備考
※F S (複層ビニル床シート) ○防汚性ビニル床シート ○	○無地 ○マ-柄 ○柄物	※2.0 ○

接合部の処理 ※熱溶接工法 ○

[6.8.2.3]

○17 ビニル床タイル [G]

種類の記号

色 柄	寸法 (mm)	厚さ (mm)	備考
※K T (コンポジションビニル床タイル) ○柄物	○300×300 ○450×450 ○	※2.0 ○3.0	
○T T (単層ビニル床タイル) ○柄物	○300×300 ○450×450 ○	○2.0 ○	
○F T (複層ビニル床タイル) ○柄物	○300×300 ○450×450 ○	○2.0 ○2.5 ○3.0	
○F O A (置き敷きビニル床タイル) ○柄物	○500×500 ○	○4.0 ○	
○F O B (薄型置き敷きビニル床タイル) ○柄物	○	○	

[6.8.2]

○18 特殊機能床材

[6.8.2]

	厚さ、寸法、形状 (mm)	性 能	種 類
○帯電防止床シート	(mm)		
○帯電防止床タイル	× (mm)		
○視覚障害者用床タイル	(mm)		
○耐動荷重性床シート	(mm)		
○防滑性床シート	(mm)		
○防滑性床タイル	× (mm)		

視覚障害者用床タイル 突起の形状、寸法及びその配列は JIS T 9521 による

[6.8.2]

○19 ビニル幅木

材質の種類 ○軟質 ○硬質
高さ (mm) ※60 ※75 ○100
厚さ (mm) ※1.5以上 ○

[6.8.2]

○20 ゴム床タイル

[6.8.2]

○21 カーペット敷き [G]

種類 ○単送品 ○積層品
色柄 ()
厚さ (mm) ○3.0 ○4.5 ○6.0 ○9.0
寸法 (mm) () × ()

[6.9.2.3] [表6.9.1、2]

○襪じゅうたん

織り方	バイル形状
○ウェストンカーペット ○ダブルフェースカーペット ○アキスミンスターカーペット	○カットバイル ○ループバイル ○カット/ループ

色柄 ※模様のない無地 ○
バイル系の繊維種類等
※無地の織りじゅうたんの種別 (種別: ○A種 ○B種 ○C種)
○
帯電性 ○適用する ○適用しない
襪じゅうたんの接合方式 ※ヒートボンド工法 ○つづり縫い
下敷き材 ※反毛フェルト (JIS L 3204) の第2種2号 呼び厚さ 9mm ○

○タフテッドカーペット

バイル形状	バイル長さ (mm)	工法	帯電性	備 考
○カットバイル	○5~7	○全面接着工法	○適用する	
○ループバイル	○4~6	○ゲリッパ- 工法	○適用しない	
○カット、ループ併用	○			

下敷き材 (グリッター工法の場合)
※反毛フェルト (JIS L 3204) の第2種2号 呼び厚さ 8mm ○

○タイルカーペット

バイル形状	種別	施工箇所	寸法	総厚さ (mm)	備 考
※ループバイル	※ 第一種 ○ 第二種		※500×500 ○	※6.5 ○	
○カットバイル	○ 第一種 ○ 第二種		※500×500 ○	※6.5 ○	
○カット、ループ併用	○ 第一種 ○ 第二種		※500×500 ○	※6.5 ○	

タイルカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ○
タイルカーペットの敷き方 平 場 ※市松敷き ○模様流し ○
階段部分 ※模様流し ○市松敷き ○
見切り、押え金物 材質 () 種類 ()
形状等 ※図示 ○

[6.10.2.3] [表6.10.5~7]

種別	施工箇所	工法	仕上の種類
○厚膜型塗床材 弾性樹脂系塗床材			※平滑仕上げ ○防滑仕上げ ○つや消し仕上げ
○厚膜型塗床材 ※樹脂系塗床材		○薄膜流しのべ工法 ○厚膜流しのべ工法 ○樹脂流しのべ工法	○平滑仕上げ ○防滑仕上げ
○薄膜型塗床材 (※樹脂系塗床材)			※平滑仕上げ
○777樹脂塗床 (防塵塗料塗リ)		※製造所の指定による	表面仕上げ ※平滑 溶剤 ※水性

塗床材のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ○

[6.11.2~6] [表6.11.1~4]

○22 合成樹脂塗床

フローリングのホルムアルデヒドの放散量等
※改修標準仕様書6.14.2(2)による ○
各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒドの放散量
※F☆☆☆☆ ○

[6.11.2~6] [表6.11.1~4]

○23 フローリング張り [G]

フローリングのホルムアルデヒドの放散量等
※改修標準仕様書6.14.2(2)による ○
各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒドの放散量
※F☆☆☆☆ ○

[6.11.2~6] [表6.11.1~4]

○単層フローリング (フローリングボード1等)
工法 ○釘止め工法 (○根太張り ○直張り)
○接着工法
※なら ○
樹種 ○A種 ○B種 ○C種
間伐材等の適用 ○適用する ○適用しない
○単層フローリング (フローリングブロック1等)
樹種 ○
厚さ (mm) ○
大きさ ○
間伐材等の適用 ○適用する ○適用しない
○複合フローリング
工法 ○釘留め工法 (○根太張り ○直張り)
○接着工法
※なら ○
樹種 ○A種 ○B種 ○C種
間伐材等の適用 ○適用する ○適用しない
接着工法の場合の不陸緩和材 ※合成樹脂発泡シート ○
○現場塗装仕上げ
※ウレタン樹脂ワニス塗り
○オイルステインの上、ワックス塗り
○生地のままワックス塗り

[6.12.2] [表6.12.1]

○24 畳敷き

種別 ○A種 ○B種 ○C種 ○D種 (畳床: OKT-I OKT-II OKT-III OKT-K OKT-N)
下地の種類 ○標準仕様書 表12.6.1による床組
※ポリスチレンフォーム床下地 (ノンフロン [G])
○
畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、
発散が極めて少ない材料を使用したものとする。
衝撃緩和型畳 (畳表: ○C1 ○C2)

[6.12.2] [表6.12.1]

工事名

松戸市消防訓練センター管理棟外壁改修工事

図面名

特記仕様書 (5)

作成年月日

令和 8年 7月 日 変更年月日

縮尺

No Scale 図面番号

A-06

松戸市 街づくり部 建築保全課

25	せっこうボード その他のボード 張り	MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放数量 ※F☆☆☆☆ ○ 合板のホルムアルデヒド放数量 ※改修標準仕様書6.13.2(2)イのa)～d)のいずれか ○ 接着剤のホルムアルデヒド放数量 ※F☆☆☆☆ ○ 木毛セメント板 G	[6.13.2、3] [表6.13.1]
種 類	厚さ(mm)、規格等		
○硬質(HW)	○15 ○20 ○25 ○		
○中質(MW)	○15 ○20 ○25 ○		
○普通(NW)	○15 ○20 ○25 ○		
木片セメント板 G			
種 類	厚さ(mm)、規格等		
○硬質(HF)	○12 ○15 ○18 ○21 ○		
○普通(NF)	○30 ○		
繊維強化セメント板			
種 類	厚さ(mm)、規格等		
○けい酸カルシウム板	普通ボード0.8FK タイプ2(無石綿) ○6 ○8		
○化けい酸カルシウム板	普通ボード0.8FK タイプ2(無石綿) ○6 ○8 表面への化粧張り等の加工 ○アクリル樹脂系塗付け ○		
火山性ガラス質複層板			
種 類	厚さ(mm)、規格等		
○火山性ガラス質複層板	○図示		
纖維板 G			
種 類	厚さ(mm)、規格等		
ハードボード ○スタンダードボード(無処理)	○素地ハードボード (○未研磨板(RN) ○研磨板(RS)) ○内装用化粧ハードボード(DI) ○2.5 ○3.5 ○5 ○7		
ハードボード ○テンハードボード(処理)	○素地ハードボード (○未研磨板(RN) ○研磨板(RS)) ○外装用化粧ハードボード(DE) ○2.5 ○3.5 ○5 ○7		
○ミディアムデンシティ ファイバーボード(MDF) G	○3 ○7 ○9 ○12		
○インシュレーションボード G	A級(○天井仕上 ○内装仕上 ○) ○9 ○12 ○15 ○18		
パーティクルボード G			
種 類	厚さ(mm)、規格等		
○単板張りパーティクルボード	○無研磨板(VN) ○研磨板(VS) ○10 ○12 ○15 ○18		
○化粧パーティクルボード	○単板オーバーレイ(DV) ○7ラフ・オーナールイ(D0) ○塗装(DC) ○10(難燃) ○12(難燃) ○		
吸音材料			
種 類	厚さ(mm)、規格等		
○ロックウール化粧吸音板(DR)	○フラットタイプ (○9(不燃) ○12(不燃) ○) ○凹凸タイプ (○12(不燃) ○15(不燃) ○)		
○ロックウール吸音ボード1号	○25 ○		
○グラスウール吸音ボード32K	○25(5ラッパ包) ○		
せっこうボード製品			
種 類	厚さ(mm)、規格等		
○せっこうボード(GB-R)	※12.5(不燃) ○15(不燃)		
○不燃積層せっこうボード(GB-NC)	○9.5(不燃) ○化粧無(下地張り用) ○化粧有(トラバーチン模様)		
○シーリングせっこうボード(GB-S)	○12.5(※不燃) ○準不燃		
○強化せっこうボード(GB-F)	○12.5(不燃) ○15(不燃)		
○せっこうラスボード(GB-L)	○9.5		
○化粧せっこうボード(GB-D)	○木目 12.5(不燃) 幅440mm程度 模様(○柱目 ○板目) 専用下地材有り ○トラバーチン模様 9.5(準不燃)		
合板 G			
種 類	厚さ(mm)、規格等		
○普通合板	表面の樹種 生地、透明塗料塗り (※3次合板程度 ○) 不透明塗料塗り (※1次合板程度 ○) 板面の品質 ○ 厚さ(mm) ※図示 ○ 防虫処理 ○行う ○行わない		
○天然化粧合板	化粧板の樹種名 ○ 厚さ(mm) ※図示 ○ 防虫処理 ○行う ○行わない		
○特殊加工化粧合板	化粧加工の方法(○オーバーレイ ○リフト ○塗装) 表面性能()タイプ 厚さ(mm) ※図示 ○ 防虫処理 ○行う ○行わない		
○構造用合板	厚さ(mm) ○24		
化粧板			
○メラミン樹脂化粧板	JIS K 6903による(※1.2 ○)		
○ポリエステル樹脂化粧板			
天井のボード類(ロックウール吸音板を除く)の重ね張りを行う場合 ※図示 ○ 合板張りの張付け ○A種 ※B種 ○ せっこうボードの目地工法等 目地工法の種類 ※仕上げ表による 突付け工法及び目隠し工法のエッジの種類 突付け工法のエッジの種類 ○ベベルエッジ ○スクエアエッジ 目隠し工法のエッジの種類 ○ベベルエッジ ○スクエアエッジ 化粧加工の方法(○オーバーレイ ○プリント ○塗装 ○)			

○26	壁紙張り
-----	------

ホルムアルデヒド放数量
☒F☆☆☆☆ ○

施工箇所	壁紙の種類							防火性能	備考
	紙	繊維	塩化ビニル	フラスチク	無機質	その他			
	○	○	○	○	○	○	○	○不燃○準不燃○難燃	
		○	○	○	○	○	○	○不燃○準不燃○難燃	
		○	○	○	○	○	○	○不燃○準不燃○難燃	
		○	○	○	○	○	○	○不燃○準不燃○難燃	

モルタル及びせうこうプラスチック面の素地ごしらえの種別 ☒B種 ○A種
コンクリート面の素地ごしらえの種別 ☒B種 ○A種
せうこうボード面及びその他の素地ごしらえの種別 ☒B種 ○A種

[6.14.2、3]

○27 モルタル塗り

モルタル ○現場調合材料 ○既調合材料（ ）
既製目地材 ○設ける
 施工箇所（ ） 形状（☒図示 ○ ）
床目地 ○設けない
 ○設ける
 目地割り ☒2㎡程度（最大目地間隔3m程度） ○
 目地の種類 ☒押し目地 ○
 ○設けない
壁面の仕上げ厚又は全塗り厚が25mmを超える場合の下地処理
○図示 ○

[6.15.3～6] [表6.15.2]

○28 タイル張り

伸縮調整目地の位置 床タイル ☒縦、横とも4m以内ごと ○図示 ○
 床タイル以外 ○図示 ○
伸縮目地のシーリング材、目地方法は改修標準仕様書3章7節による
見本焼き ○行う（施工箇所： ） ○行わない
試験張り ○行う（範囲、仕様等は図示による） ○行わない

○セメントモルタルによるタイル（セラミックタイル）張り

施工箇所	種類	形状／寸法(mm)	再生材料の適用	吸水率による区分			うわすり	役物	色	耐凍害性	耐清り性	備考
				I類	II類	III類						
①			○	○	○	○	○	○	○	○	○	
②			○	○	○	○	○	○	○	○	○	
③			○	○	○	○	○	○	○	○	○	

①施工範囲： 備考：
②施工範囲： 備考：
③施工範囲： 備考：

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
既調合モルタルの品質、性能、試験方法は建築材料等品質性能表（改修）(1)4章
既調合モルタル（内装改修工事共通）による
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
既製調整目地材の品質、性能、試験方法は建築材料等品質性能表（改修）(2)6章
タイル張りによる
壁タイル張りの工法
内装タイル ○密着張り ○改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル ○マスキング張り ○モザイクタイル張り

○有機系接着剤によるタイル（セラミックタイル）張り

施工箇所	種類	形状／寸法(mm)	再生材料の適用	吸水率による区分			うわすり	役物	色	耐凍害性	耐清り性	備考
				I類	II類	III類						
①			○	○	○	○	○	○	○	○	○	
②			○	○	○	○	○	○	○	○	○	
③			○	○	○	○	○	○	○	○	○	

①施工範囲： 備考：
②施工範囲： 備考：
③施工範囲： 備考：

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
内装タイル接着剤張りの接着剤はホルムアルデヒド放数量
☒F☆☆☆☆ ○
○汚重タイル t6 TOTOTハイドロセラ・フロアPU薄型同等品

○29 セルフレベリング材塗り

塗厚 (mm)
○

[6.17.2、3]

○1 フリーアクセスフロア

施工箇所	構法	寸法(mm)	高さ(mm)	耐震性能	所定荷重(N)	表面仕上材	備考
	○置敷式 ○支柱 調整式	○500×500 ○		○I.0G ○O.6G	○3000 ○5000	○帯電防止床材 ○タイルカーペット ○	

寸法精度
☒標準仕様書20.2.2(2)(ウ) (a)～(c)による
○以下による
パネルの長さの寸法精度（ ）
パネルの平面形状（角度）の寸法精度（ ）
フリーアクセスフロアの高さの寸法精度（ ）
帯電防止性能
○評価値(U) ≥0.6以上 ○評価値(U) ≥1.2以上
感電防止性能
漏えい抵抗(R) ≥1×10⁹Ω
品質、性能、試験方法は建築材料等品質性能表（改修）(2)6-2章フリーアクセスフロアによる

(20.2.2)

2 可動間仕切

構成基材の種類

構造形式による種類	構成基材の種類		パネル表面仕上げ	遮音性 (db/500Hz)	防火 性能
	スチrod	バド			
○スタッド式(内蔵) ○スタッド式(露出) ○スタッドパネル式 ○パネル式			○フミン樹脂焼付又は フミン樹脂焼付 ○壁紙張り ○	○0 ○12 ○20 ○28 ○36	○不 ○

パネル内に取付ける建具 ○あり(図表示 ○) ○なし
 パネル内に取付ける建具のドアクローザー、丁番、錠前、上げ落とはし
 標準仕様書16章8節の建具用金物に対応する材質とする。
 表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章8節による。
 パネル材のホルムアルデヒド放数量
 ◎F☆☆☆☆ ○

3 移動間仕切

走行方向

走行方向	操作方法 による種類	パネル圧接 装置の 操作方法	総厚さ (mm)	パネル表面材		遮音性 (db/500Hz)
				材質	仕上げ	
○平行方向	○手動式	○プッシュ式	○	○鋼板	○焼付塗装	○36未満 ○36以上
○移動式	○電動式	○ハンドル式		○	○壁紙張り	
○二方向 移動式	○部分 電動式	○		○	○	

パネル表面仕上げの壁紙張りの品質、性能 標準仕様書19章による
 ハンガーレールの取付け下地の補強
 ◎取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となる
 ように補強する。
 ○図示
 パネルをランナーに取り付ける部品
 ◎ランナーに加わる重量の5倍以上の荷重に耐えられるもの
 ○
 ハンガーレール及びランナー
 ◎パネル重量の5倍の荷重を、パネル1枚に使用するランナー数で除した値に対して、
 耐力及び変形量が使用上支障のないもの
 品質、性能は建築材料等品質性能表(改修)(2)6-2章移動間仕切による
 ○

4 トイレブース

表面材の種類

表面材の種類	脚部	ドアエッジ	
	種類	材質	形状
○メラミン樹脂系化粧板 ○ポリエステル樹脂系化粧板 ○特殊UV塗装硬質セメント板	◎縦木タイプ ○	◎製造所の仕様による ○アルミニウム製 ○ステンレス製 ◎表面材と同材	◎標準 ○Rタイプ

品質、性能、試験方法は建築材料等品質性能表(改修)(2)6-2章トイレブースによる

5 視覚障害者用
床タイル

施工箇所

施工箇所	種類	寸法(mm)		厚さ(mm)
		幅	長さ	
屋内	○塩化ビニル製 ○	○300×300	○	○7.0 ○
	○磁器質タイル ○セラ質タイル	○300×300	○	○
	○レジンコンクリート製 ○コンクリート製	○300×300	○	○
屋外	○磁器質タイル ○セラ質タイル	○300×300	○	○
	○レジンコンクリート製 ○コンクリート製	○300×300	○	○

ブロックパターンは JIS T 9251 による

6 手すり

材料の種類及び仕上げ

○SUS304 表面処理 HX程度 ○
 ○鋼製 表面処理 溶融亜鉛めっき(◎標準仕様書表14.2.2による種別(種))
 ○アルミニウム 表面処理(◎標準仕様書表14.2.1による種別(種))
 色合 ◎標準色() ◎特注色()

手すりの握り部分

材種	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所	備考
○集成材 (材種:)	○クリアラッカー ○	○30程度 ○35程度 ○45程度		
○ビニル製ハンドレール		○30程度 ○35程度 ○45程度		

7 階段滑り止め

材種

○ステンレス製 ○黄銅製押出型材 ○アルミニウム製押出型材 ○
 形状
 ◎タイヤ型(タイヤの材質:ゴム又は合成樹脂等) ○タイヤレス型
 端部の形状
 ○フラットエンドあり ○フラットエンドなし
 寸法(幅)
 ○35mm程度 ○40mm程度 ○50mm程度
 取付け工法
 ◎接着工法 ○埋込み工法

8 黒板及び
ホワイトボード

○黒板
 区分 ◎焼き付け ○
 種類 ◎鋼製黒板 ○ほうろろ黒板 ○
 色 ◎緑 ○
 ○ホワイトボード

9 鏡

取付箇所 ()
 寸法(mm) ○図示 ○
 厚さ(mm) ◎5 ○

○10 表示

衝突防止表示

○設置場所 ☒図示

形状、寸法（○30φ ○_____）

材質 （○ステンレス製 ○塩ビシート）

○設置しない

誘導標識、非常用出入口等の表示

☒消防法に適合する市販品 ○_____

室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、
取付け形式等（案内用図記号はJIS 5 8210による）

☒図示

○11 タラップ

材質及び仕上げ

○SUS304（スリッ止め加工 ☒あり ○なし）

○鋼製 表面処理 溶融亜鉛めっき

（標準仕様書表14.2.2による種別（☒C種 ○____種））

○12 ブラインド

形式	操作方法	操作方法の種類	スラットの材質	スラット幅 (mm)	シャッター の材質	幅、高さ の取付箇所
○横形	○手動	☒ギヤ式	☒アルミニウム 合金製 ☒	☒25 ○_____	☒鋼製 ○_____	○図示 ○_____
		○コード式				
		○操作棒式				
○縦形	○手動	☒2本操作コード式	○アルミスラット ○クロススラット	○80 ○100	☒78mm 合金製	○図示 ○_____
		○1本操作コード式				
		○電動				

縦型ブラインドのスラットの材質

○アルミスラット 焼付け塗装仕上げ

○クロススラット 消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工

※スラット繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は ☒ とする

○13 ロールスクリーン

操作方法	スクリーンの材質	その他の材料	幅、高さ 取付箇所	品質等
○スプリング式	○ガラス繊維製	☒製造所の 仕様	○図示 ○_____	○_____
○コード式	○合成、天然繊維製			
○電動式				

スクリーンの仕様

消防法で定める防炎性能の表示があるもの

ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する
場合は ☒ とする

○14 カーテン

形式	開閉操作	ひだの種類	生地の種類、 品質、特殊加工等	取付 箇所	備考
○シングル	○片引き	○つまみひだ		○図示 ○_____	
○ダブル	○ひも引き	○箱ひだ、片ひだ			
	○電動	○プレーンひだ			

生地の仕様

消防法で定める防炎性能の表示があるもの

ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は
☒ とする

暗幕カーテンの両端、上部及び召合せの重なり ☒300mm以上 ○_____

○15 カーテンレール

材料による区分 ☒ アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材

 ○ ステンレス製

強さによる区分 ☒10-90 ○_____

仕上げ ☒アルマイト ○_____

形状 ☒角形 ○_____

幅×深さ（mm） ○90×150 ○120×80 ○120×150 ○150×80 ○図示

材質 ○黒成材（仕上げ：_____）

 ○アルミニウム製 押出し型材（市販品）

 種別（標準仕様書 表 14.2.1） ○BC-1種 ○BC-2種

 色合い ○標準色（_____） ○特注色（_____）

 ○鋼製（仕上げ：_____）

○17 天井点検口

材質	寸法	形式	外枠	内枠
☒78mm製 ○_____	○450×450 ○600×600 ○_____	○一般形	○屋内外用	○縁縁タイプ
		○密閉形	○屋内用	○目地タイプ
		○気密形		

品質、性能、試験方法は建築材料等品質性能表（改修）(2)6-2章天井点検口による

○18 床点検口

材質	寸法	形式	備考
○78mm製	○450×450 ○600×600 ○_____	○一般形	○鍵付き
○ステン製		○屋内外用	
○鋼製		○屋内用	

密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとす。

品質、性能、試験方法は建築材料等品質性能表（改修）(2)6-2章床点検口による

工事名	松戸市消防訓練センター管理棟外壁改修工事		
図面名	特記仕様書（6）		
作成年月日	令和 8 年 7 月 日	変更年月日	
縮尺	No Scale	図面番号	A-01

○19 止水板

形 状 ○ 差込式 ○ 据置式 ○ 壁張り式
 施工箇所 ○ 図示 ○ _____

○20 エキスパンション
ジョイント金物

材質	区分区	建築物間の クリアランス(mm)	変位追従量(mm)	耐火性能	断熱性能	備考
○7系ｺﾝｸﾘｰﾄ 製 __階～__階 ○7系ﾌﾗｲ 製 __階～__階		○50 ○100 ○150 ○_____ 以上	(避難経路の床等) _____ 以上 (その他) _____ 以上	○有り (_____) ○無し	○有り (_____) ○無し	
○7系ｺﾝｸﾘｰﾄ 製 __階～__階 ○7系ﾌﾗｲ 製 __階～__階		○50 ○100 ○150 ○_____ 以上	(避難経路の床等) _____ 以上 (その他) _____ 以上	○有り (_____) ○無し	○有り (_____) ○無し	

外部に設置するものは、防水型とする。
 エキスパンションジョイントカバーには、脱着防止措置を講ずる。

○21 くつふきマット

材種	受け枠	備考
○塩化ビニル又はゴム製 ○硬質アルミニウム合金製 ○ステンレス鋼 (SUS304) 製 ○	○ステンレス鋼 (SUS304) ○硬質アルミニウム合金 ○	

○22 流し台ユニット

材 種	寸法(mm)			備 考
	W	D	H	
○流し台	○1200 ○1500 ○1800 ○2420	○550 ○600 ○650	○800 ○850 ○900	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製
○コンロ台	○600	○550 ○600 ○650	○620 ○670	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製
○つり戸棚	○1200 ○900	○450	○500 ○700	市販品
○水切り	○1200 ○900 ○600	/	/	市販品 ステンレス製 ○1段式 ○

品質、性能
 外観はJIS A 4420「キッチン設備の構成材」の4.1による。
 構成材は、JIS A 4420の8により試験を行ったとき、表1の既定による。
 形状
 ☒図示 ○ _____

○23 鋼製書架及び
物品棚

種 類	規格等	JISによる種類
○鋼製書架	JIS S 1039 の規格による	○ 1 種 ○ 2 種 ○ 3 種
○鋼製物品棚		○ 4 種 ○ 5 種 ○ 6 種

●24 屋内掲示板

枠の材質 ●アルミニウム製 ○ _____
 表面の材質 ☒塩ビ発泡シート張り ○ _____

○25 洗面カウンター

材 種 ○メラミン樹脂化粧板張り (心材：集成材) ○人工大理石
 奥行き(mm) ○約 450 ○約 600

○26 防煙垂れ壁

○固定式

材 質	厚さ(mm)	高さ(mm)	備 考
☒網入り磨板ガラス	☒6.8	☒500	アルミ製枠付き
○網入り磨板ガラス	○	○	

○可動式

種 類	材 質	厚さ(mm)	備 考
○垂直降下式 (巻取り型)	☒ 不燃布 (不燃認定品)	☒500 ○800 ○	ガイドレール ☒ 固定式 (壁埋込型) ○ 可動式 (天井収納型)
○回転降下式	鋼板製又はアルミ製	☒500 ○800 ○	表面仕上げ ☒ 天井材張り ○

降下機構 煙感知器連動及び手动開放装置 (埋込型)

○28 収納家具

材料のホルムアルデヒドの放散量
 ☒F☆☆☆☆ ○ _____
 材質、形状、寸法 ☒図示 ○ _____

● 1 材料

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 [7.1.3]

■ F☆☆☆☆ ○ _____

防火材料 窓屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。

○次の箇所を除き防火材料とする。（箇所：_____）

● 2 下地調整

塗替え R 種の場合の既存塗膜の除去範囲 [7.2.1~7] [表7.2.1~7]

■劣化部分は除去し、活膜部分は残す ○ 図示 ○ _____

既存錆止め塗料の鉛含有量調査 ○ 行う _____（箇所） ● 行わない

下地調整

下地面の種類	下地調整の種類 塗替え	ひび割れ部の 補修
木部	窓不透明塗料塗りの場合は R B 種 ○ _____	〃
鉄鋼面	■ R B 種 ○ _____	〃
亜鉛めっき面	窓 R B 種 ○ _____	〃
亜鉛めっき面（鋼製建具等）	窓 R B 種 ○ _____	〃
モルタル、 せこうブラスター面	窓 R B 種 ○ _____	○ 行う ○ 行わない
コンクリート面（DP 以外）、 A L C パネル面	窓 R B 種 ○ _____	○ 行う ○ 行わない
押出成形セメント板面	○ R A 種 ○ R B 種 ○ R C 種	○ 行う ○ 行わない
コンクリート面（DP）	○ R B 種 ○ R C 種	○ 行う ○ 行わない
せこうボード面及び その他ボード面	窓 R B 種 ○ _____	〃

- 3 素地ごしらえ
- 4 錆止め塗料塗り
- 5 塗装

下地面等		種別		
木部	不透明塗料塗りの場合	☒ A種	○ B種	
	透明塗料塗りの場合	☒ B種	○ A種	
鉄鋼面 (DP以外)		☒ C種	○ A種	○ B種
鉄鋼面 (DP)		☒ B種	○ A種	○ C種
亜鉛めっき鋼面		○ A種	○ B種	
モルタル面及びせっこうブラスター面		☒ B種	○ A種	
コンクリート面 (DP以外) 及び A・L・C パネル面		☒ B種	○ A種	
押出成形セメント板面及びコンクリート面 (DP)		○ A種	● B種	
コンクリート面 (DPのみ)		☒ B種	○ A種	
せっこうボード面及び	目地: 継目処理工法	☒ A種	○ B種	
その他ボード面	目地: 継目処理工法以外	☒ B種	○ A種	

[7. 2. 2～7] [表7. 3. 1～7]

舗止め塗料塗りの種別			
素地面	塗装の種類	塗料の種類	工程の種類
鉄鋼面	SOP (工程の種類は表7. 4. 3)	塗替え 新規見え掛り 新規見え隠れ	A種 A種 A種
	EP-G (工程の種類は表7. 4. 3)	塗替え 新規見え掛り 新規見え隠れ	☒ B種 ○ A種 ☒ B種 ○ A種 ○ C種
	DP (工程の種類は表7. 4. 4)	塗替え 新規	7. 4. 2 (1) (f) (b) による。 7. 4. 2 (1) (f) (a) による。
			○ A種 (下地調整 R A 種) ● B種 (下地調整 R B 種) ○ C種 (下地調整 R C 種) ● A種
	SOP (工程の種類は表7. 4. 5)	塗替え 鋼製建具等 新規 その他	☒ A種 ○ B種 ☒ A種 ○ B種 ○ B種 ○
	EP-G (工程の種類は表7. 4. 5)	塗替え 鋼製建具等 新規 その他	☒ C種 ○ ○ C種 ○ ☒ B種 ○
	DP (工程の種類は表7. 4. 6)	塗替え 新規	☒ B種 ○ ☒ B種 ○

[7. 4. 2, 3] [表7. 4. 1～6]

塗装の種類			
塗装面		工程	
○合成樹脂調合ベント塗り (SOP) 塗料の種類 ☒1種 ○2種	木部屋外	塗替え	新規
	木部屋内	☒B種 ○	☒A種 ○
	鉄鋼面	☒B種 ○	☒B種 ○
	亜鉛めっき鋼面 (鋼製建具)	☒A種 ○	●B種 ○
	亜鉛めっき鋼面 (鋼製建具以外)	☒B種 ○	○B種 ○
○クリアラッカー塗り (CL)		☒B種 ○A種	☒B種 ○A種
○アクリル樹脂系非水分散型塗料塗り (NAD)		☒B種 ○A種	☒B種 ○A種
●耐候性塗料塗り (DP)	鉄鋼面		
	上塗り等級 (1) 級		
	亜鉛めっき鋼面		
	上塗り等級 () 級		
	コクリート面及び押出成形 セメント板面	○A-1種 ○A-2種 ○B-1種 ○B-2種 ○C-1種 ○C-2種	●A-1種 ○ ○B-1種 ○ ○C-1種 ○
○つや有合成樹脂エマルジョンベント塗り (EP-G)	上塗り等級 (1) 級	○C-1種 ○C-2種	○B種 ○A種
	コクリート面等	○B種 ○	○B種 ○A種
	屋内の木部	☒B種 ○	☒A種 ○
	屋内の鉄鋼面	☒B種 ○	☒B種 ○A種
	屋内の亜鉛めっき面	A種 ○	A種 ○B種
○合成樹脂エマルジョンベント塗り (EP)		☒B種 ○	☒B種 ○A種
○ウレタン樹脂ワニス塗り (UC)		☒B種 ○	☒B種 ○A種
○ステイン塗り		○ビグメントステイン塗り ○オイルステイン塗り (OS)	
○木材保護塗料塗り (WP)		☒B種 ○A種	☒B種 ○A種

[7. 5. 2～7. 12. 2] [表7. 5. 1～7. 13. 1]

つや有合成樹脂エマルジョンベント塗り (コクリート面、モルタル面、せっこうブラスター面、
 せっこうボード面、その他ボード面) の塗替えの場合のしめ止め
 ○B種又はC種の場合は改修標準仕様書表7. 9. 1の工程1の下塗りをしめ止めシテとする
 ○
 合成樹脂エマルジョンベント塗りの塗替えの場合のしめ止め
 ○
 ○
 ○高日射反射率塗料塗り [G]
 下地調整 (改修標準仕様書表7. 2. 2) ☒R A種 ○R B種 ○R C種

工程	塗料その他				塗付け量 (kg/m ²)
	規格番号	規格名称	種類	等級	
塗料塗り	JIS K 5675	屋根用高日射 反射率塗料	2 種	○ 1 級	塗料製造所の仕様 による
				○ 2 級	
				○ 3 級	

クリアラッカー塗り A 種の工程 2 の適用
 ○適用しない
 ○適用する (着色剤: ○溶剤系着色剤 ○油性染料着色剤)
 ウレタン樹脂ワニス塗りの工程 1 の着色の適用
 ○適用する
 ○適用しない
 オイルステイン塗りの工程等
 ○製造所の仕様による

除去処理対象物質 ○PCB ○六価クロム ○
 除去対象物 ○
 除去対象範囲 ○図示 ○
 除去方法 ○
 処分 ○

有害物質の取扱については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき適正に
 処理すること。

⑧ 環境配慮改修工事	
● 1 石綿含有建材の除去工事	

[9. 1. 1, 3～6]

○石綿粉じん濃度測定

測定時期、場所より測定点

適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点 (各施工箇所ごと)
○	測定 1	処理作業前	処理作業室内	○計 _____点
○	測定 2	処理作業中	調査対象室外部の付近	○計 _____点
○	測定 3		処理作業室内	○計 _____点
○	測定 4		セパレーター入口	○計 _____点
○	測定 5		集じん・排気装置の 排出口 (処理作業室外の場合)	出口吹き出し 風速 1m/s 以下の位置 ○計 _____点
○	測定 6		処理作業室内 ○施工区画周辺 ○敷地境界	○計 _____点
○	測定 7	処理作業後 (シート養生中)	処理作業室内	○計 _____点
○	測定 8	処理作業後(シート 撤去後1週間以降)	処理作業室内	○計 _____点
○	測定 9		調査対象室外部の付近	○計 _____点

○作業前・中・後 敷地境界 4点 (計 1 2点)

測定方法

○自動測定器による測定

測定名称	測定方法
○測定 4	粉じん相対濃度計(デジタル粉じん計)、パーティクルカウンター、 繊維状粒子自動測定器(リアルタイムファイバーモニター)等の粉じん を迅速に測定できる機器を用いた測定
○測定 5	

○JIS K 3850-1 に基づいた測定

測定名称	メンブレンフィルタ 直径 (mm)	試料の吸引 流量 (l/min)	試料の吸引 時間 (min)
○測定 4	25	5	30
○測定 5			
○ _____			
○測定 4	47	10	120
○ _____			
○測定 4	47	10	240
○ _____			
○測定 4			
○ _____			

[9. 1. 3～6]

石綿含有建材の処理

○石綿含有吹付材の除去

除去対象範囲 ○図示 ○ _____

除去工法

☒改修標準仕様書9.1.3 (2) (7)による ○ _____

除去した石綿含有吹付材材等の飛散防止措置

☒湿潤化 ○固形化

除去した石綿含有吹付材材等の処分

○埋立処分(管理型最終処分場)

○中間処理(溶融施設又は無害化処理施設)

○石綿含有保温材等(石綿含有けい酸カルシウム板第二種含む)の除去

除去対象範囲 ○図示 ○ _____

除去工法

☒破砕して除去 ○手ばし

除去した石綿含有保温材等の飛散防止

☒湿潤化 ○固形化

除去した石綿含有保温材等の処分

○埋立処分(管理型最終処分場)

○中間処理(溶融施設又は無害化処理施設)

●石綿含有成形板(石綿含有けい酸カルシウム板第一種以外)の除去

除去対象範囲 ○図示 ● _____

除去した石綿含有成形板の処分

○石綿含有せっこうボード

☒埋立処分(管理型最終処分場)

●石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板

●埋立処分(安定型最終処分場)

○中間処理(溶融施設又は無害化処理施設)

○石綿含有成形板(石綿含有けい酸カルシウム板第一種)の除去

除去対象範囲 ○図示 ○ _____

隔離養生(負担不要) 方法

○ビニールシート等による養生を行う ○ _____

足場 ○図示 ○ _____

除去した石綿含有けい酸カルシウム板第一種の処分

○埋立処分(安定型最終処分場)

○中間処理(溶融施設又は無害化処理施設)

○ _____

●石綿含有仕上塗材又は石綿含有成形板(下地調整材)の除去

除去対象範囲 ○図示 ●既存塗膜劣化部・リカットシール材充填部

着工前の試験施工 ☒行う ○行わない

除去工法

●集じん装置付きディスクグラインダーケレン工法(リカットシール材充填部)

○集じん装置併用工具ケレン工法

○集じん装置付き高圧水洗工法(15MPa以下、30～50MPa程度)

○集じん装置付き超高压水洗工法(100MPa以上)

○剥離剤併用超音波ケレン工法

●剥離剤併用工具ケレン工法(既存塗膜劣化部)

○剥離剤併用高圧水洗工法(30～50MPa程度)

○剥離剤併用超高压水洗工法(100MPa以上)

○超音波ケレン工法(HEPAフィルター付き掃除機併用)

養生方法

○ _____

石綿含有仕上塗材又は石綿含有成形(下地調整材)の除去

(1) 剥離剤を使用する工法では、ジクロロメタン等の有害性の高い化学物質を使用しない。

剥離剤使用量 0.6～1.0kg/m²

(2) 水を使わず除去する工事の場合には、未処理の廃水が流出・地下浸透しないようすべて回収しなければならない。回収した廃水は、凝集沈殿後の上澄み水を通処理する等により、適切に処理した上で放流すること。

除去した石綿含有仕上塗材の処分

●埋め立て処分(安定型最終処分場)

○埋め立て処分(管理型最終処分場)

○中間処理(溶融施設または無害化処理施設)

石綿含有建材除去後の仕上り工事 ●図示 ○ _____

○ 2

断熱・防露改修
工事

G

○ 3

透水性
アスファルト
舗装改修工事

[9. 3. 2～4]

フェノールフォーム断熱材又は保温剤、接着剤のホルムアルデヒド放散量
☒ F☆☆☆☆ ○
開口部等補修のための張付け用の接着剤のホルムアルデヒド放散量
☒ F☆☆☆☆ ○
工法
○断熱材打込み工法
断熱材 JIS A 9521 に基づく発泡プラスチック断熱材
種類 ○
厚さ(mm) ○
施工場所 ○
○断熱材現場発泡工法
断熱材の種類 ○A種1 ○A種1H ○
収付け厚さ(mm) ○25 ○30 ○
施工場所 ○図示 ○
○断熱材後張り工法
断熱材 JIS A 9521 に基づく発泡プラスチック断熱材
種類 () 厚さ (mm) ()
○断熱材にせっこうボード等を貼り付けたパネル
材質 ○ 厚さ ○ (mm)
○張り付け工法
断熱材の張り付け工法 ○
断熱材へのボードの張付け工法 ○

適用範囲：歩道
既存舗装の撤去及び再利用 ☒図示 ○
路床
路床の材料

種別	材料	厚さ (mm)
○盛土	○A種 ○B種 ○C種 ○D種 ○建設汚泥から再生した処理土 G	○図示 ○
○凍上抑制層	○再生クラッシャーラン G ○クラッシャーラン ○切込み砂利 ○砂（改修標準仕様書表9.5.1による） ○	○図示 ○
○フィルター層	○改修標準仕様書表9.5.3(2) f) による	○図示 ○

○凍結抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験
○行う ○行わない
○路床安定処理 ○適用する ○適用しない
安定処理の方法 ○置き換え工法 (○) ○安定処理工法
路床安定処理添加材料
種類 ○普通ポルトランドセメント ○高炉セメントB種 G
○フライアッシュセメントB種
○生石灰 (○特号 ○1号) ○消石灰 (○特号 ○1号)
添加量 ○ kg/m³ (目標CBR ②3以上 ○)
目標CBRを満足する添加量の確認方法
○安定処理土のCBR試験 ○
○不織布（ジオテキスタイル）
単位面積質量 ○60g/m²以上 ○
厚さ (mm) ○0.5~1.0 ○
引張強さ ○98N/5cm (10kgf/5cm) 以上 ○
透水係数 ○1.5×10⁻¹¹ cm/sec以上 ○

工事名

松戸市消防訓練センター管理棟外壁改修工事

図面名

特記仕様書（7）

作成年月日

令和 8年 7月 日

変更年月日

縮尺

No Scale

図面番号

A-08

8
環境配慮改修工事

試験

路床土の支持力比（CBR）試験　○行う（　箇所）　○行わない
路床締固め度の試験　○行う（　箇所）　○行わない
現場CBR試験　○行う（　箇所）　○行わない
六価クロム溶出試験　○行う（現場説明書による）　○行わない

路盤

路盤の厚さ　○図示　○
路盤材料（改修標準仕様書表9.5.31による種別）
○クラッシャーラン　○粒度調整砕石　○再生クラッシャーラン　[G]
○再生粒度調整砕石　[G]　○クラッシャーラン鉄鋼スラグ　[G]
○粒度調整鉄鋼スラグ　[G]　○水硬性粒度調整鉄鋼スラグ　[G]
舗装の構成　○図示　○
開粒度アスファルト混合物等の抽出試験　○行う　○行わない
舗装の平たん性　◎著しい不陸がないもの　○

○ 1　土工事

1.　埋め戻し及び盛り土（3.2.3）（表3.2.1）
種別　○A種　◎B種　○C種　○D種
○建設汚泥から再生した処理土　[G]

2.　建設発生土の処理（3.2.5）
○構外搬出適切処理
○構内指示の場所に敷き均し、　○構内指示の場所に堆積、○（　　）

○ 2　コンクリートブロック工事

1.　補強コンクリートブロック造（8.2.2～5）
○ブロックの種類：

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ（mm）	モジュール呼び寸法（mm） 長さ　高さ	化粧の有無	適用箇所	備考
○			○無、○有		
○			○無、○有		

モルタル調合（容積比）　：○（セメント（　　）：砂（　　））
各部の配筋　：◎図示、○（　　）
モルタル又はコンクリートで充填するブロックの範囲　：◎図示、○（　　）

2.　コンクリートブロック横壁及び隅（8.3.2～4）
○ブロックの種類：

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ（mm）	モジュール呼び寸法（mm） 長さ　高さ	化粧の有無	表8.3.1以外の適用箇所	備考
○空洞ブロックC(16)			○無、○有		
○型枠状ブロック20			○無、○有		
○			○無、○有		

塀の厚さ（mm）　：　
塀の高さが2m以下　◎120、○（　　）
塀の高さが2m超え　◎150、○（　　）
壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状　：◎図示、○（　　）
各部の配筋　：◎図示、○（　　）

施　工

●外壁面に取りつく金属製建具の既存ガラスクリーニング(外面)は本工事とする。

●破損及び滅失金物は、交換又は取付、その他の金物は調整する。
調整建具箇所
●金属製建具　（　○内外共　　○外部　●図示　　）
○木製建具

○ 2　建設発生土（3.2.5）

建設発生土は、
処分場会社名　　処分場住所　、
（発生場所からの距離　km）に搬出することとする。

工事発注後、上記の指定処理により難しい場合は、監督職員と協議するものとする。
片道運搬距離は積算上、代表地点から算出したであり距離であり、
実際の運搬距離と差異が生じる場合においては、設計変更の対象としない。
搬出の際は、平成3年環境庁告示第46号付表に定める方法により検液を作成し、
計量した結果証明書提出しなければならない。
なお、計量する対象は、付表に定める溶出試験28項目、含有量試験2項目とする。

別記2

工事区分表

工　事　内　容		施　工　区　分		
		建築	電気	機械
開口部	鉄筋コンクリート、コンクリートブロックの　柱、梁、壁、床に設ける開口	解体、穴明け	○	○
		鉄筋補強	○	○
		スリーブ、型枠（補強筋無し）	○	○
		スリーブ、型枠（補強筋有り）	○	○
		埋戻し、穴埋め（補強筋無し）	○	○
基礎	軽量鉄骨下地天井、壁ボード類に設ける開口	埋戻し、穴埋め（補強筋有り）	○	○
		開口補強	○	○
		切込み（開口補強有り）	○	○
		切込み（開口補強無し）	○	○
		躯体と一体のもの	○	○
礎	屋内　配電盤、制御盤、キューブル受水槽、タンク類等	上記以外のもの	○	○
		躯体と一体のもの	○	○
		上記以外のもの	○	○
		鉄筋コンクリート製	○	○
		無筋コンクリート製、その他	○	○
点検口	屋上　テレビアンテナ、避雷針、高架水槽、クーリングタワー	鉄筋コンクリート製	○	○
		無筋コンクリート製、その他	○	○
		鉄筋コンクリート製	○	○
		無筋コンクリート製、その他	○	○
		鉄筋コンクリート製	○	○
配管配線	架台、アンカーボルト	鉄筋コンクリート製	○	○
		無筋コンクリート製、その他	○	○
		鉄筋コンクリート製	○	○
		無筋コンクリート製、その他	○	○
		鉄筋コンクリート製	○	○
配管配線	床、壁、天井	鉄筋コンクリート製	○	○
		無筋コンクリート製、その他	○	○
		鉄筋コンクリート製	○	○
		無筋コンクリート製、その他	○	○
		鉄筋コンクリート製	○	○
配管配線	配管ビット、トレンチビット	鉄筋コンクリート製	○	○
		無筋コンクリート製、その他	○	○
		鉄筋コンクリート製	○	○
		無筋コンクリート製、その他	○	○
		鉄筋コンクリート製	○	○
配管配線	機器付属の制御盤（接地とも）	鉄筋コンクリート製	○	○
		無筋コンクリート製、その他	○	○
		鉄筋コンクリート製	○	○
		無筋コンクリート製、その他	○	○
		鉄筋コンクリート製	○	○
配管配線	熱感知器から連動制御盤を経て防火ダンパーに至る配管配管	鉄筋コンクリート製	○	○
		無筋コンクリート製、その他	○	○
		鉄筋コンクリート製	○	○
		無筋コンクリート製、その他	○	○
		鉄筋コンクリート製	○	○
配管配線	防火シャッターから熱感知器に至る配管	鉄筋コンクリート製	○	○
		無筋コンクリート製、その他	○	○
		鉄筋コンクリート製	○	○
		無筋コンクリート製、その他	○	○
		鉄筋コンクリート製	○	○
配管配線	換気扇取付パネル	鉄筋コンクリート製	○	○
		無筋コンクリート製、その他	○	○
		鉄筋コンクリート製	○	○
		無筋コンクリート製、その他	○	○
		鉄筋コンクリート製	○	○

仮設足場（参考）

桟組み本足場

鋼製布板

桟組み本足場ブレース

鋼製布板

建柱

根がらみ

最上段

二段

手すり

中間段

最下段

最上段については、手すり専用足場型といえども二段手すり及び幅木（つま先板）を設置すること。（高さ150mm以上の金属製とし、両側に設置する。）手すりの安全帯取り付け強度を確認すること

H=850以上で中さんを有する丈夫な手すりとする

幅木（つま先板）は高さ150mm以上の金属製とし、両側（外部及び躯体側）に設置する。

注）墜落防止のため、内側（躯体側）に上さんを設置すること。（高さ850mm以上）

「働きやすい安心感のある足場」手すり先行専用足場型概念図

足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」について（厚生労働省　基発第0424001号平成21年4月24日）の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。

別記1

建設副産物の処理

● 1　共通事項

1) 「千葉県建設リサイクル推進計画2016ガイドライン」に基づき、本工事に係る「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」を「建設副産物情報交換システム（OORIS）」により作成し、発生材処理計画書に含め各1部提出すること。
また、計画の実施状況(実績)については、「再生資源利用実施書」及び「再生資源利用促進実施書」並びに「建設副産物情報交換システム工事登録証明書」を同システムにより作成し、各1部提出するとともに、これらの記録を工事完成後一年間保存しておくこと。

◎作成対象工事
「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」は請負金額が、「再生資源利用実施書」及び「再生資源利用促進実施書」並びに「建設副産物情報交換システム工事登録証明書」は最終請負金額が100万円以上の全ての工事について建設資材の利用、建設副産物の発生・搬出の有無にかかわらず作成する。

2) 建設廃棄物の処理を委託する場合は、収集運搬又は　処分について許可業者と各々建設廃棄物処理契約を締結し、「建設廃棄物処理委託　契約書」を監督職員に提示するとともに、同契約書の写しを同申請書に添付すること。
建設副産物の処理完了後速やかに、「建設副産物処理調査」を作成し、1部提出するとともに、実際に要した処理費等を証明する資料（受入伝票、写真等）を監督職員に提示し確認を受けること。

3) 建設副産物の処理に当たって、産業廃棄物管理票制度に基づく紙マニフェスト方式による場合は、原則として複写式伝票のE票を提示すること。
また、電子マニフェスト方式による場合は、原則として廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づき指定された情報処理センターが発行する当該工事のマニフェスト情報を収録した電子媒体又は建設廃棄物の引渡し時、運搬終了時及び処分終了時に登録される情報を印刷したもの（受渡確認票等）を提示すること。

工事名

松戸市消防訓練センター管理棟外壁改修工事

図面名

特記仕様書（8）

作成年月日

令和 8年 7月 日

変更年月日

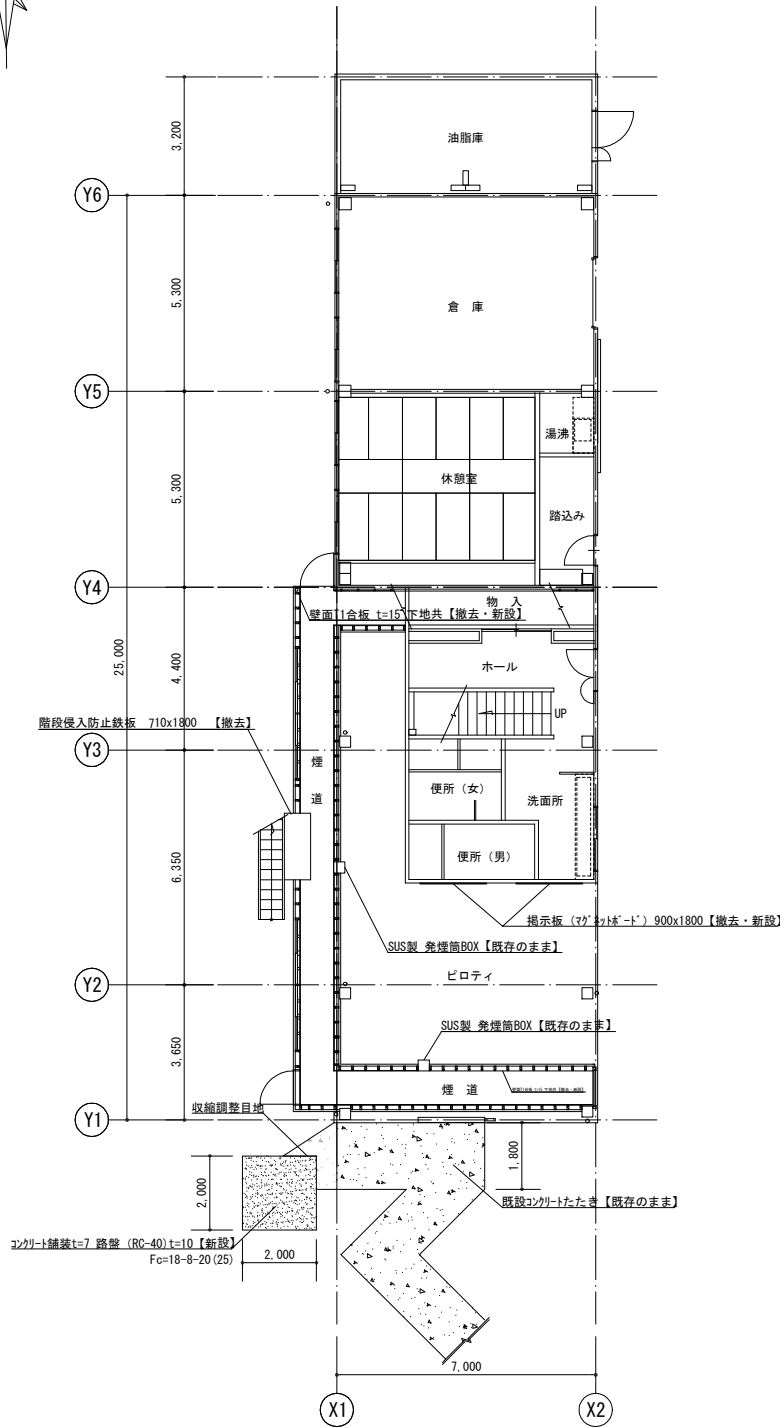
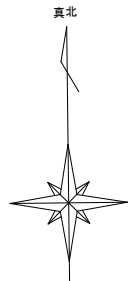
縮尺

No Scale

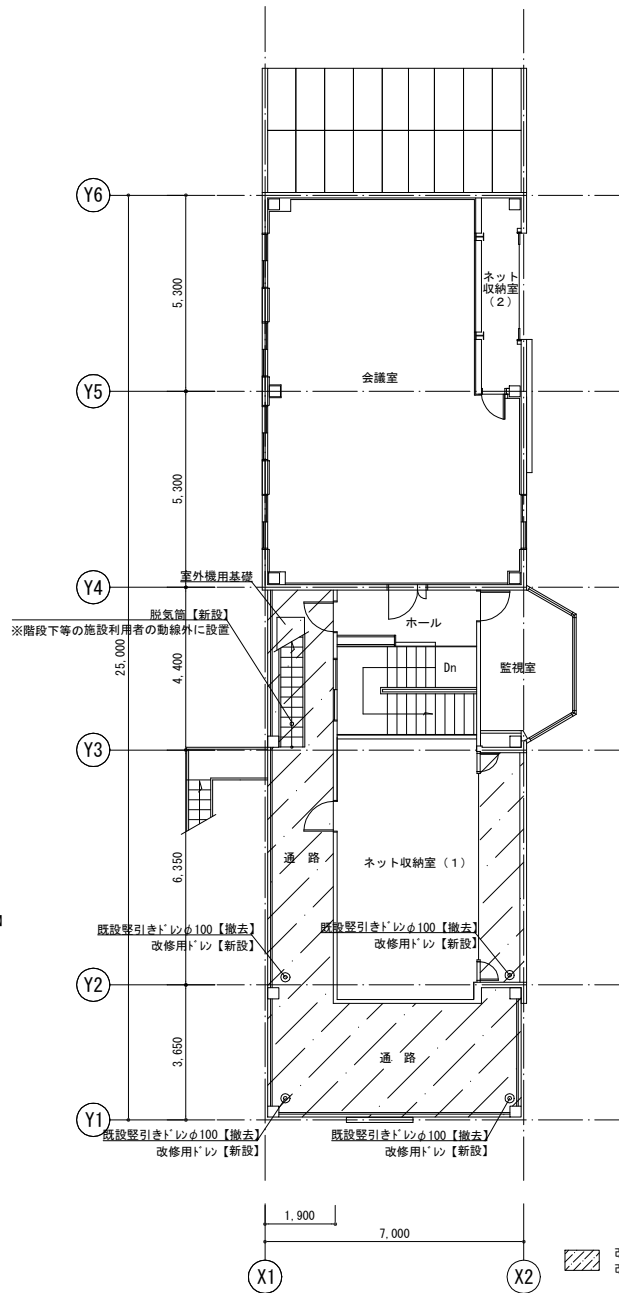
図面番号

A-09

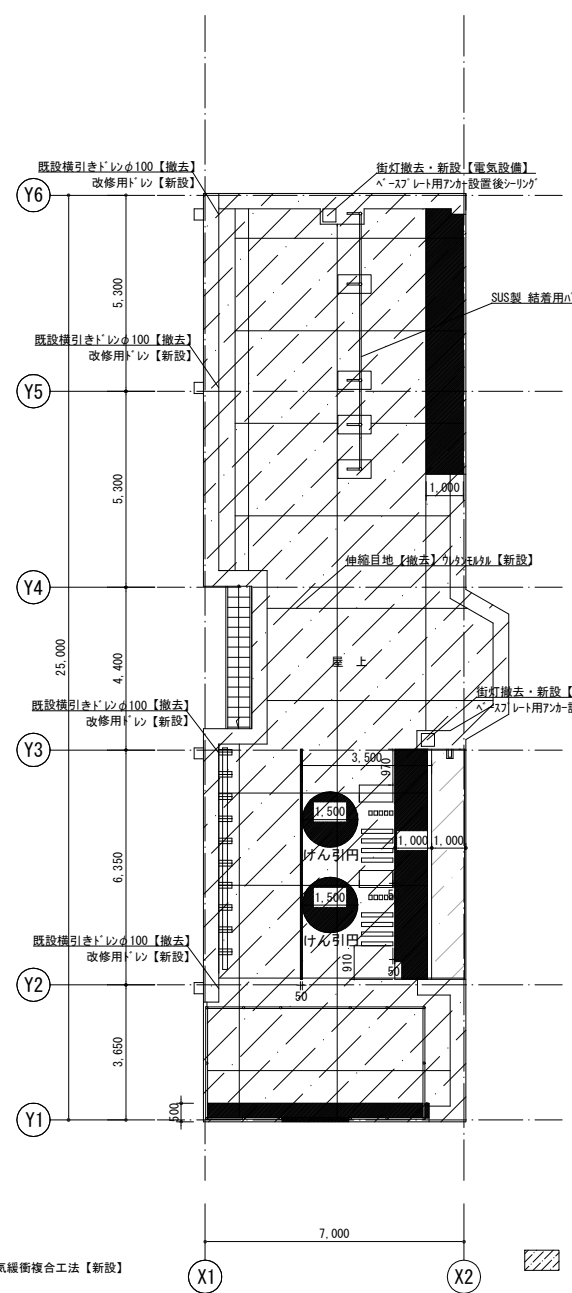
松戸市 街づくり部 建築保全課



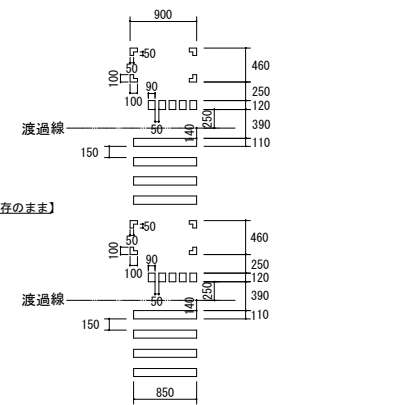
1階平面図 S=1:100



2階平面図 S=1:100



屋上平面図 S=1:100



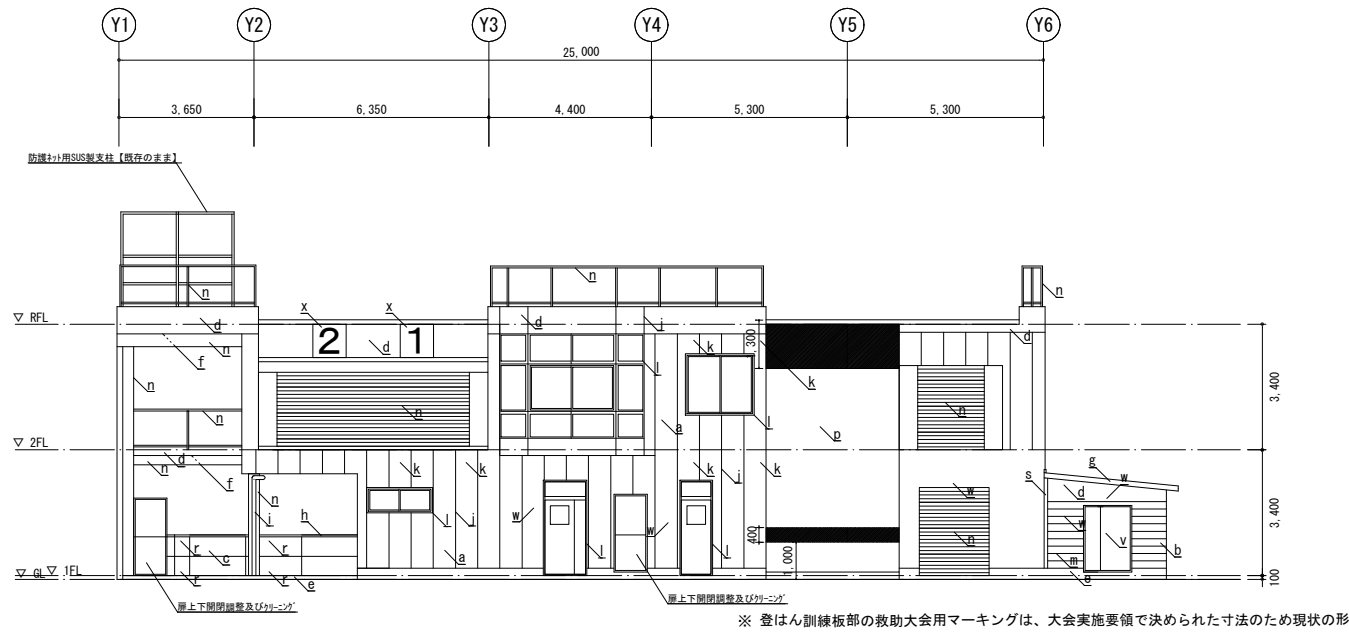
救助大会用マーキング詳細図 S=1:50

改修前：737防水A-2工法コンクリート金ゴ押し【既存のまま】
改修後：高圧水洗の上、高強度リキ塗膜防水露出仕上げ通気緩衝複合法【新設】
※ 田島M-フック® 鋼 1/2インチ (EXW-39A) 同等品
※ 立上り及びびきり部は同上商品立上り仕様とする

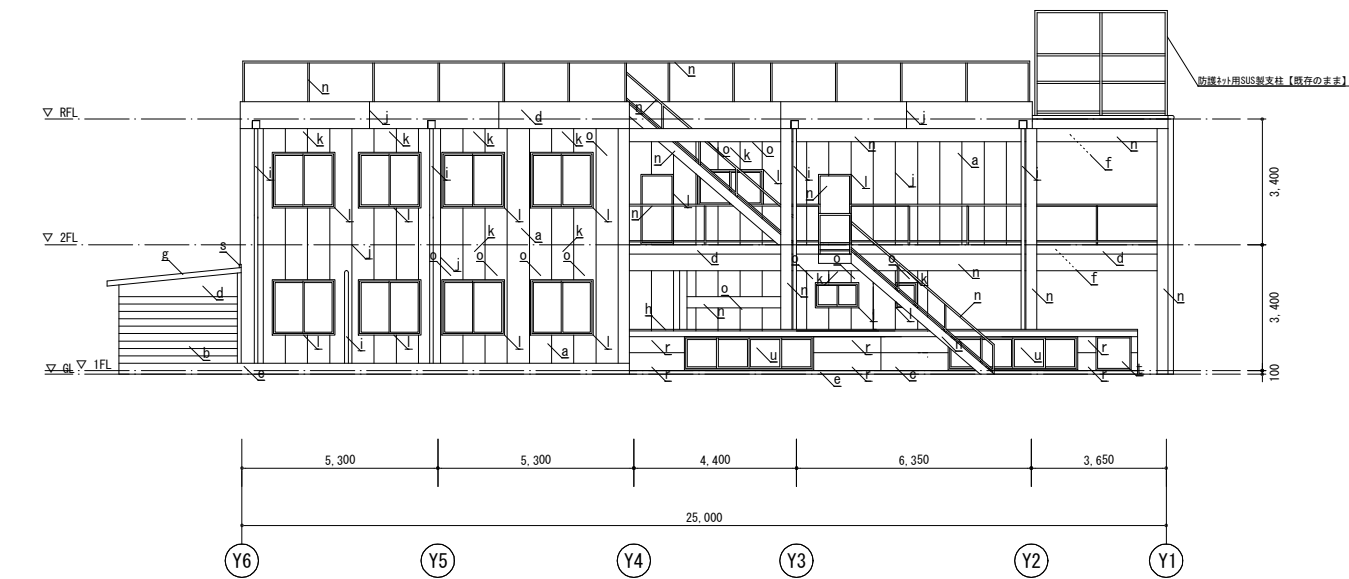
改修前：737防水A-2工法コンクリート金ゴ押し【既存のまま】
改修後：高圧水洗の上、高強度リキ塗膜防水露出仕上げ通気緩衝複合法【新設】
※ 田島M-フック® 鋼 1/2インチ (EXW-39A) 同等品
※ 立上り、笠木及び底部は同上商品立上り仕様とする

※ 屋上部の救助大会用マーキングは、大会実施要領で決められた寸法のため、位置出しの際に必ず監督職員及び施設管理者（消防局）と協議をすること。

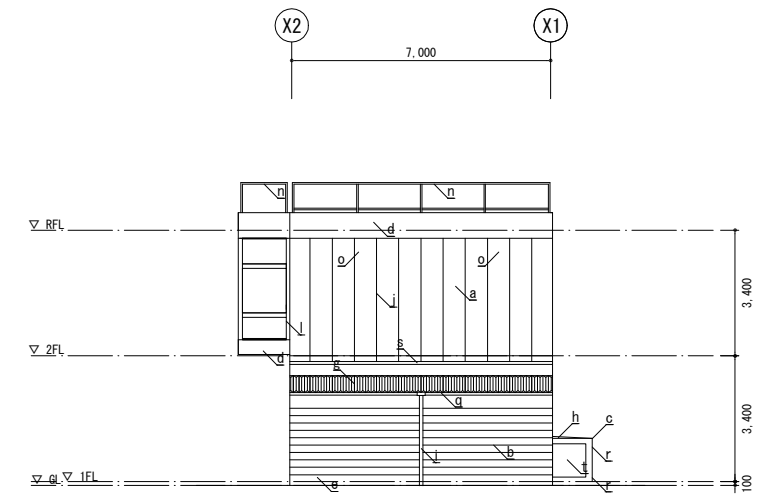
工事名	松戸市消防訓練センター管理棟外壁改修工事			
図面名	各階平面図			
作成年月日	令和 8年 7月 日	変更年月日		
縮尺	1 : 25	1 : 100	図面番号	A-10
松戸市 街づくり部 建築保全課				



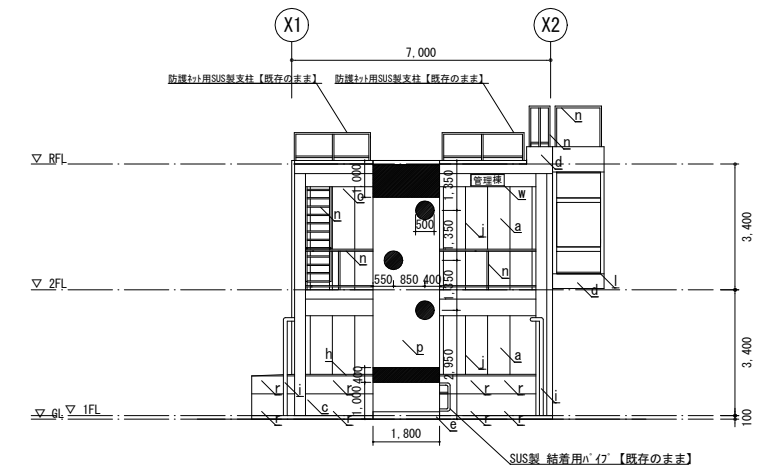
東立面図 S=1/100



西立面図 S=1/100



北立面図 S=1/100



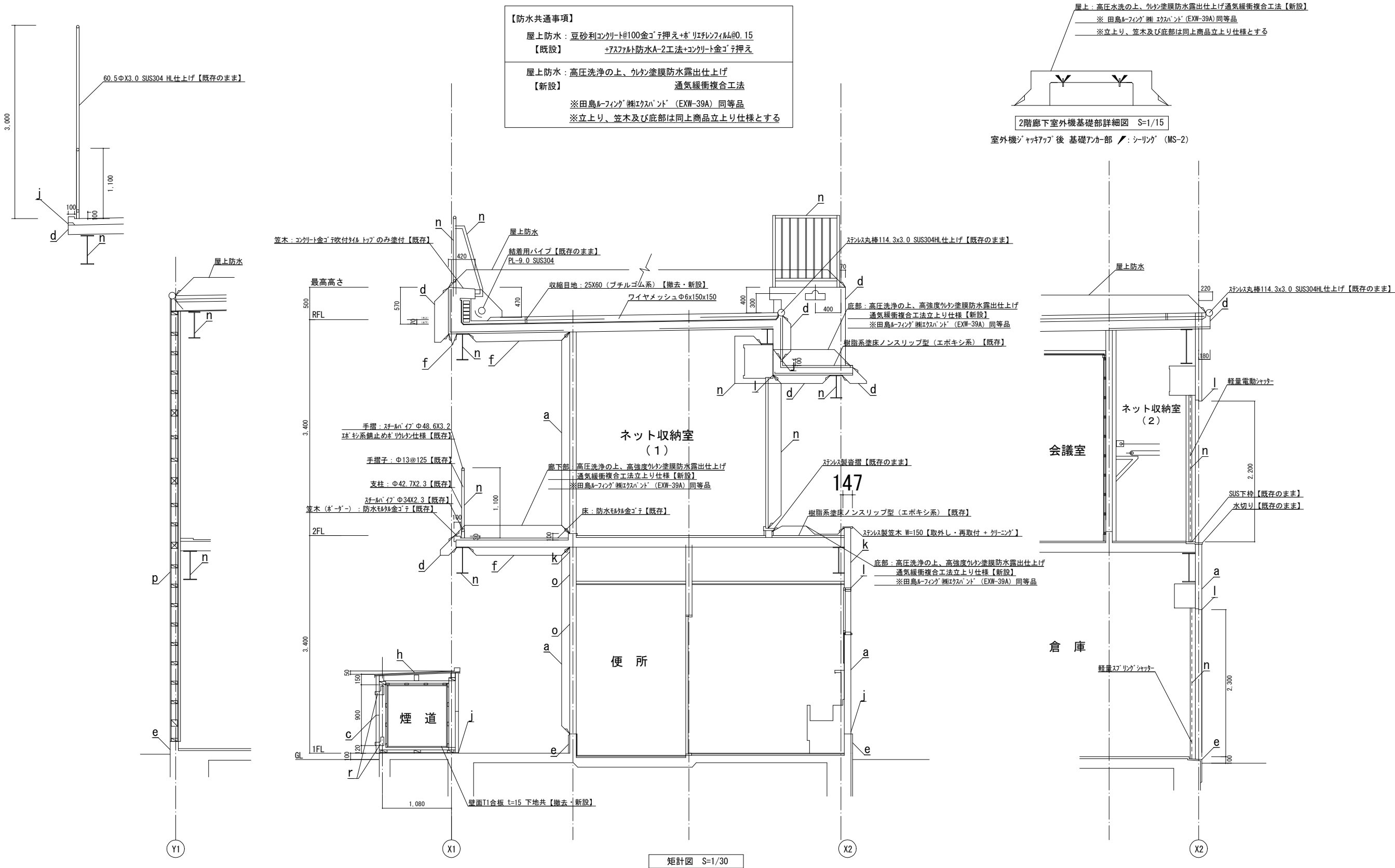
南立面図 S=1/100

※ 登はん訓練板部の救助大会用マーキングは、大会実施要領で決められた寸法のため現状の形態を厳守し、位置出しの際に必ず監督職員及び施設管理者（消防局）と協議をすること。

＜凡例＞

a	外壁1	既 存	ALC板 t=100 + 吹付けタ ※7A ⁺ ※含有【既存のまま】	g	屋根1 (油断庫)	既 存	石綿スレート大波板 ※7A ⁺ ※含有【撤去】	m	消火器BOX	既 存	スチール製【撤去】	s	EXP-J	既 存	SUS製【撤去】
		改修後	可とう形改修塗材E【塗替え】（補修部：下地調整C-1 + 複層塗材E）			改修後	波形スレート（無石棉）【新設】水切り役物共			改修後	SUS製【新設】			改修後	7A ⁺ 製 カリナS50【新設】
b	外壁2 (油断庫)	既 存	補強コンクリートRof t=150(防水) + 吹付けタ ※7A ⁺ ※含有【既存のまま】	h	屋根2 (煙道)	既 存	長尺ワ素樹脂鋼板 t=0.6+7A ⁺ タタキ+フロン+T1合板#15【撤去】	n	鉄骨 手すり 建具（鉄部）	既 存	DP塗装【既存のまま】	t	建具1 (AD-4)	既 存	片開きラッチ W900 x H900【撤去】
		改修後	可とう形改修塗材E【塗替え】（補修部：下地調整C-1 + 複層塗材E）			改修後	タタキ+タタキ鋼板 t=0.4+7A ⁺ タタキ+フロン+T1合板#15【新設】			改修後	DP塗装（下地調整RB + 下塗り2回 + 上塗り1回 既存塗膜除去共）【塗替え】			改修後	片開きラッチ W900 x H900（タタキ+タタキ）【新設】
c	外壁3 (煙道)	既 存	ALC板 t=50 + 吹付けタ ※7A ⁺ ※含有【既存のまま】	i	壁種	既 存	硬質タタキ強化ビニール管とい φ100【撤去】	o	ベンチ+キャブ (リフティング含む)	既 存	7A ⁺ 製 φ200【撤去】	u	建具2 (AW-5)	既 存	引き違い窓 W3,520 x H900【撤去】
		改修後	可とう形改修塗材E【塗替え】（補修部：下地調整C-1 + 複層塗材E）			改修後	硬質タタキ強化ビニール管とい φ100(タタキ)【新設】			改修後	SUS製 φ200【新設】			改修後	引き違い窓 W3,520 x H900【新設】
d	外壁4 (窓木)	既 存	コンクリート打放し + 吹付けタイル ※7A ⁺ ※含有【既存のまま】	j	ALC目地 化粧目地	既 存	タタキ系 PU-2【新設】	p	登はん訓練板	既 存	タタキ+タタキ t=8 スチール+タタキ止め + OP【撤去】 下地共	v	建具3 (SD-1)	既 存	親子開きドア W1,300 x H1,800【撤去】
		改修後	可とう形改修塗材E【塗替え】（補修部：下地調整C-2 + 複層塗材E）			改修後	SUS製 天井換気n'47'【撤去】			改修後	下地組 + T1+タタキ t=15 + タタキ+タタキ t=8 + 7A ⁺ タタキ+タタキ + DP塗装（下地調整RB + 下塗り2回 + 上塗り1回 既存塗膜除去共）【新設】			改修後	親子開きドア W1,300 x H1,800（タタキ+タタキ D.C.タタキとし）【新設】
e	巾木	既 存	タタキ打放し【既存のまま】	k	天井換気n'47'	既 存	SUS製 天井換気n'47'【撤去】	q	軒種	既 存	塩ビ製【撤去】	w	名称看板 室名札	既 存	タタキ製【撤去】
		改修後	基礎巾木用塗料【新設】			改修後	SUS製 天井換気n'47'（網付き）【新設】			改修後	塩ビ製 120型【新設】			改修後	タタキ製 平付き + SUS製枠【新設】
f	軒裏	既 存	コンクリート打放し【既存のまま】	l	建具廻り (タタキ+タタキ)	既 存	タタキ ※7A ⁺ ※含有【撤去】	r	通気n'47'	既 存	SUS製 φ50 タタキ付き【撤去】	x	番号板	既 存	鉄製 W900 x H900【既存のまま】
		改修後	水性反応硬質軒天用仕上塗料【新設】			改修後	タタキ 20×10 仕上げあり：PU-2 仕上げなし：MS-2 タタキ廻り：SR-1【新設】			改修後	SUS製 φ50 タタキ付き【撤去】			改修後	DP塗装（下地調整RB + 下塗り2回 + 上塗り1回 既存塗膜除去共）【塗替え】

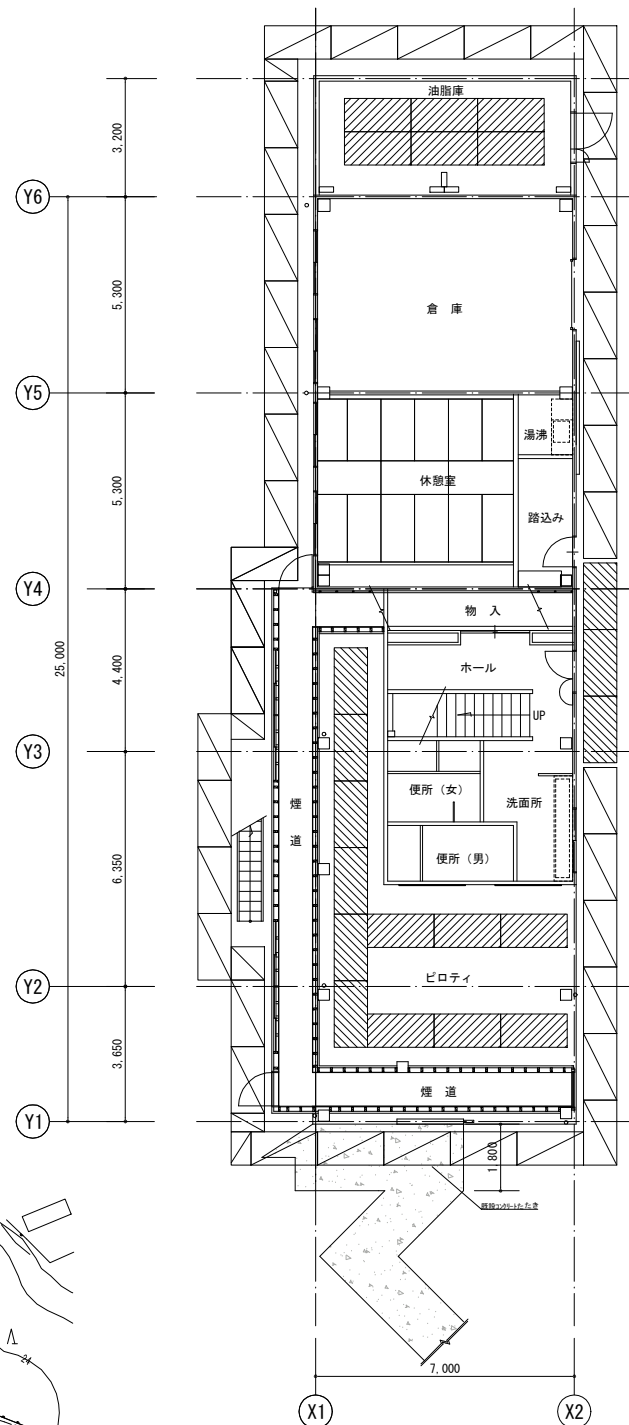
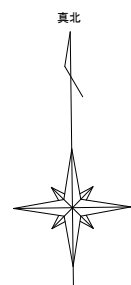
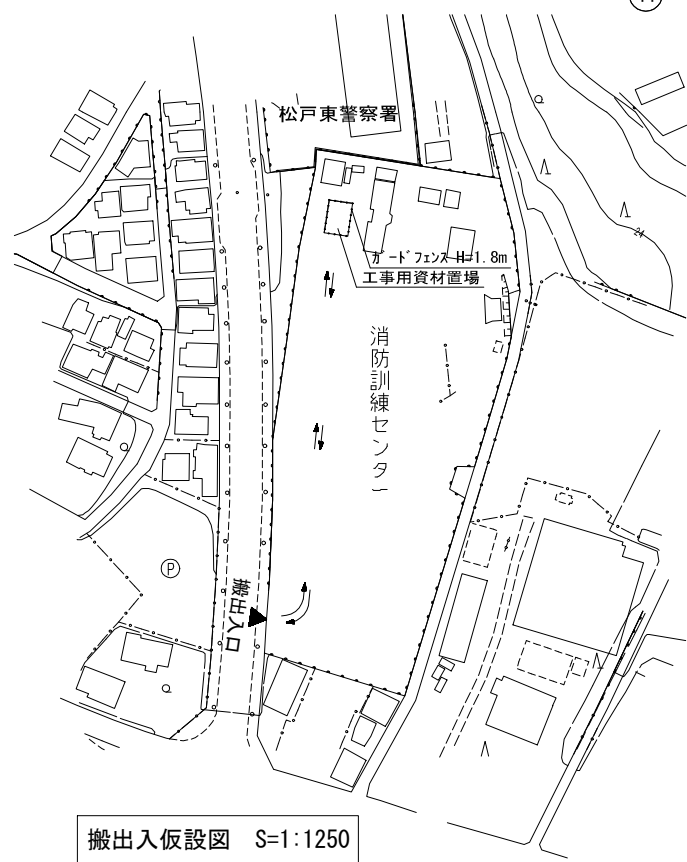
工事名	松戸市消防訓練センター管理棟外壁改修工事		
図面名	各立面図		
作成年月日	令和 8年 7月 日	変更年月日	
縮尺	1 : 100	図面番号	A-11
松戸市 街づくり部 建築保全課			



＜凡例＞

a	外壁1	既 存	ALC板 t=100 + 吹付けタ ※7Aベ 1含有【既存のまま】	g	屋根1	既 存	石積ム→大波板 ※7Aベ 1含有【撤去】	n	消火器BOX	既 存	3A-B製【撤去】	s	EXP-J	既 存	SUS製【撤去】
		改修後	可とう形改修建材E【塗替え】（補修部：下地調整C-1 + 横層建材E）			改修後	波形ム→（無石積）【新設】水切り役物共			改修後	SUS製【新設】			改修後	7A1製 リアスA50【新設】
b	外壁2 （油断庫）	既 存	補強コンクリート吹付け t=150【防水】 + 吹付けタ ※7Aベ 1含有【既存のまま】	h	屋根2	既 存	長尺タテ木組断熱板 t=0.6+7A2タタキタタキ→T1合板※15【撤去】	o	鉄骨 手すり 建具（鉄部）	既 存	DP塗装【既存のまま】	t	建具1 （AD-4）	既 存	片開きラック W900 x H900【撤去】
		改修後	可とう形改修建材E【塗替え】（補修部：下地調整C-1 + 横層建材E）			改修後	タタキ→タタキ断熱板 t=0.4【新設】			改修後	DP塗装（下地調整部 + 下塗り2回 + 上塗り1回 既存塗膜除去共）【塗替え】			改修後	片開きラック W900 x H900（リフト - マジック）【新設】
c	外壁3 （煙道）	既 存	ALC板 t=50 + 吹付けタ ※7Aベ 1含有【既存のまま】	i	壁種	既 存	硬質タタキ→タタキ t=100【撤去】	p	タタキ（タタキ含む）	既 存	7A1製 φ200【撤去】	u	建具2 （AR-5）	既 存	引き違い窓 W3,520 x H900【撤去】
		改修後	可とう形改修建材E【塗替え】（補修部：下地調整C-1 + 横層建材E）			改修後	硬質タタキ→タタキ t=100【新設】			改修後	SUS製 φ200【新設】			改修後	引き違い窓 W3,520 x H900【新設】
d	外壁4 （瓦木）	既 存	タタキ→タタキ + 吹付けタ ※7Aベ 1含有【既存のまま】	j	ALC目地 化粧目地	既 存	タタキ→タタキ ※7Aベ 1含有【既存のまま】	q	軒種	既 存	7A1製 φ200【撤去】	v	建具3 （SD-1）	既 存	親子開きタ W1,300 x H1,800【撤去】
		改修後	可とう形改修建材E【塗替え】（補修部：下地調整C-1 + 横層建材E）			改修後	タタキ→タタキ ※7Aベ 1含有【新設】			改修後	7A1製 φ200【新設】（7A1製 φ200）			改修後	親子開きタ W1,300 x H1,800（リフト - D.C. フラッシュ）
e	巾木	既 存	タタキ→タタキ【既存のまま】	k	天井換気バ	既 存	SUS製 天井換気バ【撤去】	r	軒種	既 存	塩ビ製【撤去】	w	名称看板 室名札	既 存	7A1製【撤去】
		改修後	基礎巾木用塗料【新設】			改修後	SUS製 天井換気バ【新設】			改修後	角種 塩ビ製 120型【新設】			改修後	7A1製 平付き + SUS製枠【新設】
f	軒裏	既 存	タタキ→タタキ【既存のまま】	l	建具張り （タタキ）	既 存	タタキ→タタキ【撤去】	x	通気バ	既 存	SUS製 φ50 タタキ付【撤去】	x	番号板	既 存	鉄製【撤去】
		改修後	水性反応硬質耐天用仕上塗料【新設】			改修後	タタキ→タタキ ※7Aベ 1含有【新設】			改修後	SUS製 φ50 タタキ付【撤去】			改修後	7A1製 平付き + SUS製枠【新設】

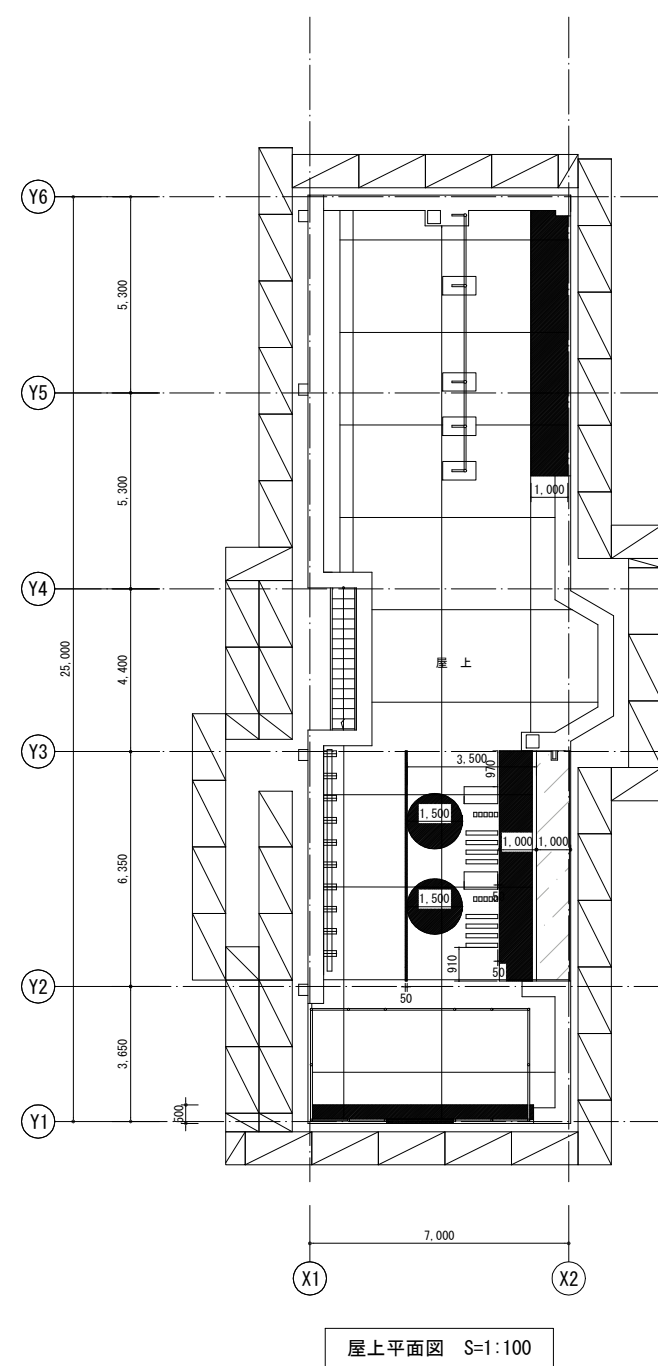
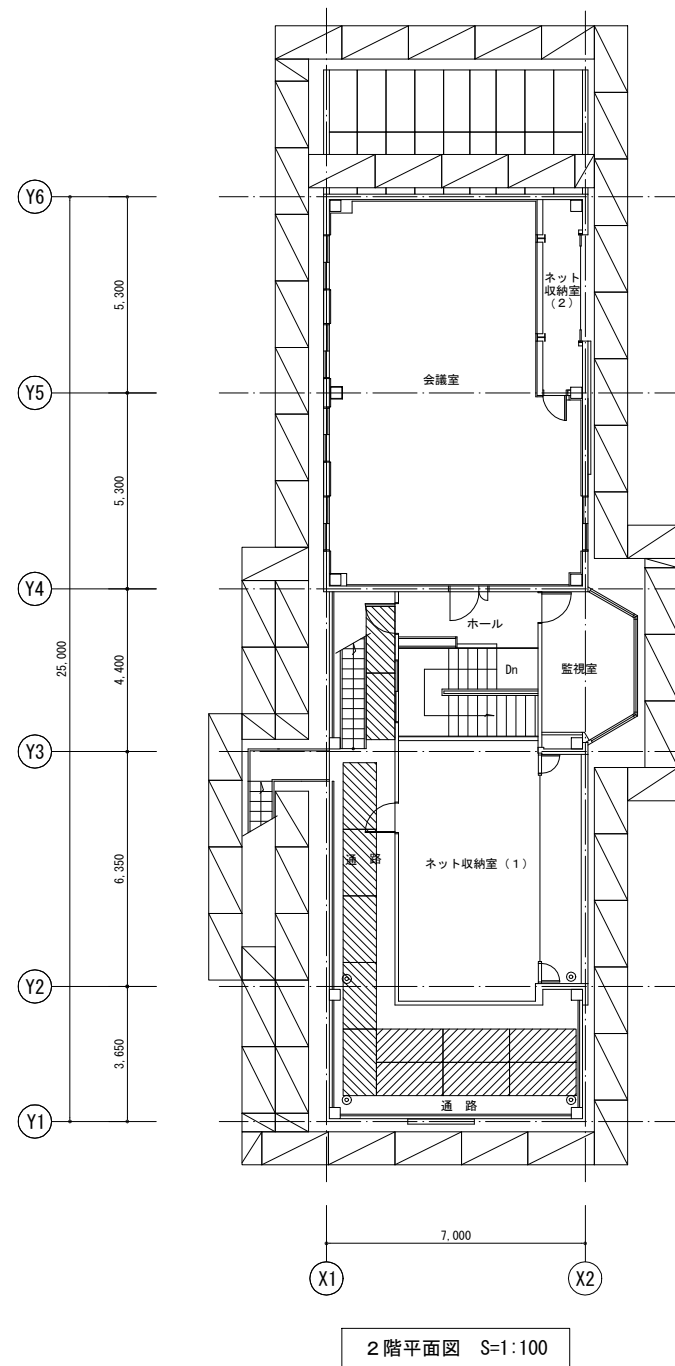
工事名	松戸市消防訓練センター管理棟外壁改修工事		
図面名	矩計図		
作成年月日	令和 8年 7月 日	変更年月日	
縮尺	1 : 100	図面番号	A-12
松戸市 街づくり部 建築保全課			



凡例

- 枠組み本足場 W900
- 脚立足場

※地上一段目については、足場内侵入防止措置を行うこと。
※管理棟の工事範囲外については施設利用者が使用しながらの工事になるため（特に2F会議室）、動線確保及び安全対策を行うこと。
※屋上での作業については、落下防止対策を適宜行うこと。



工事名	松戸市消防訓練センター管理棟外壁改修工事		
図面名	仮設計画図		
作成年月日	令和 8年 7月 日	変更年月日	
縮尺	1 : 100	図面番号	A-13
松戸市 街づくり部 建築保全課			

《 松戸市建築工事検査・立会い一覧表 》 建築工事編 (2025.7)

1. 工事名称 松戸市消防訓練センター管理棟外壁改修工事

2. 工事場所 松戸市八ヶ崎四丁目50番地の2

3. 工 期 令和 年 月 日 から 令和 9年 3月 26日 まで

標 仕：公共建築工事標準仕様書(建築工事編)令和7年版

改標仕：公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)令和7年版

No	検査・立会い項目	基準等	備 考
1	検査		
	■ 1 品質管理検査(必要に応じて)	標 仕 1. 3.6 改標仕 1. 3.6	
	■ 2 材料の検査(承諾済は除く)	標 仕 1. 4.4 改標仕 1. 4.4	
	■ 3 施工の検査等	標 仕 1. 5.5 改標仕 1. 7.5	
	□ 4 敷地の状況確認及び縄張り	標 仕 2. 2.1	
	□ 5 ベンチマーク	標 仕 2. 2.2	
	□ 6 遣方	標 仕 2. 2.3	
	□ 7 根切り	標 仕 3. 2.1 改標仕 8.28.3	
	□ 8 地業工事 掘削深さ及び支持層 (アースリル工法、リバース工法、オルケーシング工法)	標 仕 4. 5.5	
	□ 9 配筋検査	標 仕 5. 1.3 改標仕 8. 3.1	
	□ 10 コンクリート打ち込み後補修	標 仕 6. 9.6 改標仕 8. 8.6	
	□ 11 高力ボルト締付確認の記録	標 仕 7. 4.8 改標仕 8.14.8 改標仕 8.20.7	
	□ 12 鉄骨建方	標 仕 7.10.5	
	□ 13 鉄骨現場組立て	改標仕 8.19.3	
	□ 14 鋼板巻組立て	改標仕 8.23.6	
	■ 15 防水層の施工	標 仕 9. 1.3 改標仕 3. 1.3	
	□ 16 タイル張施工後の接着力試験不合格の場合	標 仕 11. 1.7 改標仕 4. 4.8 改標仕 6.16.2	
	□ 17 部分使用		
	□ 18 出来高		
2	立会い		
	■ 1 材料の検査に伴う試験	標 仕 1. 4.5 改標仕 1. 4.5	
	■ 2 監督職員の指示による立会い	標 仕 1. 5.8 改標仕 1. 7.8	
	□ 3 地業工事の試験による立会い (杭又は支持地盤の位置及び土質の試験)	標 仕 4. 2.1 改標仕 8.28.4	

《 松戸市建築工事提出書類等一覧表 》（2025.7）

1. 工事名称 松戸市消防訓練センター管理棟外壁改修工事

2. 工事場所 松戸市八ヶ崎四丁目50番地の2

3. 工 期 令和 年 月 日 から 令和 9 年 3 月 2 6 日 まで

4. CADデータの貸与 ☒有 ☐無

※1. 基準等にある「建」とは「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)令和7年版」を指す。

※2. 基準等にある「電」とは「公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)令和7年版」を指す。

※3. 基準等にある「機」とは「公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)令和7年版」を指す。

※4. 基準等にある「請負契約〇〇条」は「工事請負契約書」を指す。

	摘 要	様式	部数	基準等	提出責任者 ※記入無は 現場代理人
工 事 着 工 前 に 提 出	■工事実績情報（工事カルテ）の登録 （受注登録工事カルテ受領書、受注登録データ） ※契約額が500万円以上（契約後10日以内に登録） 【契約後14日以内】	報告	1	建1.1.4 電1.1.4 機1.1.4 松戸市建設工事 適正化指導要綱	代表者
	□電気保安技術者通知書 （資格者証の写し） 【契約後14日以内】	承諾	1	建1.3.3 電1.3.2 機1.3.2	
	■施工体制台帳・下請業者選定通知書・施工体系図 【下請契約後14日以内に提出（下請契約がない場合不要）】	報告	2	請負契約第7条 建1.1.5 電1.1.5 機1.1.5 松戸市建設工事 適正化指導要綱	
	■実施工程表 ※建築・電気・機械などの関連工事工程も記載 【初回打合せ後速やかに】	承諾	1	建1.2.1 電1.2.1 機1.2.1	
	■総合施工計画書 1. 組織表(現場代理人、主任技術者、工事用電力設備の保安責任者など)、緊急連絡体制、仮設計画図 2. 工事概要、建物概要、予想される災害・公害対策、出入口の管理、危険箇所の点検方法、火災予防、養生・片付け、工事の保険、関係官公署その他の関係機関への届出等一覧表など 【初回打合せ後速やかに】	報告	1	建1.2.2 電1.2.2 機1.2.2	

	摘 要	様式	部数	基準等	提出責任者 ※記入無は 現場代理人
工 事 中 に 提 出	■設計図書の照査報告書 【適宜】	報告	1	請負契約第19条	代表者
	■工種別施工計画書 ※資格者名簿・資格者証、使用資機材、使用材料・ 機材品質証明書などを添付	承諾	1	建1.2.2 電1.2.2 機1.2.2	主任技術者 及び現場代理人
	■施工図等（施工図、製作図、カタログ等） ※施工図、製作図は主任・現場が全ての図面に記名	承諾	1	建1.2.3 電1.2.3 機1.2.3	主任技術者 及び現場代理人
	■発生材処理計画書 産廃業者と契約書の写し（単価記載） 産廃業者の許可書の写し 再資源利用（促進）計画書 建設副産物情報交換システム工事登録証明書 ※登録は契約額が100万円以上 【廃棄物搬出前】	報告	1	建1.3.11 電1.3.9 機1.3.9	
	□月報（出来高・進捗表） 【月初め7日以内】	報告	1		
	□定例打合せ記録 【適宜】	報告	1		
	■詳細工程表（月間工程表） ※年末年始・GW・夏季等については、 安全管理措置、警備体制、緊急連絡先を記載 【前月末日まで】	報告	1	建1.2.1 電1.2.1 機1.2.1	
	□地業（既製コンクリート杭等）工事結果報告書	報告	1	建1.5.4	主任技術者 及び現場代理人
	■試験結果報告書	報告	1	建1.4.5 建1.5.6 電1.4.5 電1.5.4 機1.4.5 機1.5.5	主任技術者 及び現場代理人
	□発生土処理報告書	報告	1		
	■発生材処理報告書 産廃業者マニフェストの写し（E票） 再資源利用（促進）実施書 建設副産物情報交換システム工事登録証明書 【処分後】	報告	1	建1.3.11 電1.3.9 機1.3.9	
	□出来高検査 1 出来高検査願 2 出来高報告書	報告	1	請負契約第39条	
	□現場休止届（年末年始・GW・夏季等） ※安全管理措置、警備体制、緊急連絡先を記載	報告	1		

	摘 要	様式	部数	基準等	提出責任者 ※記入無は 現場代理人
完 成 後 に 提 出	■関係官公署その他の関係機関への届出等 【工事完了後速やかに】	報告	1		代表者
	■しゅん工届 【工事完了後速やかに】		1	建1.6.1 電1.6.1 機1.6.1	
	■自主検査記録（現場代理人以外の検査とする） 【工事完了後速やかに】	報告	1		
	■工事写真（建築工事写真撮影基準に準拠）			建1.2.4 電1.2.4 機1.2.4	
	■ 1 工事記録写真 ■ 2 完成写真 【工事完了後速やかに】	写真帳 写真帳	1 1		
	■完成図 PDF，CADデータ	CDもし くはDVD	2	建1.7.2 電1.7.2 機1.7.2	
	□電子納品 電子媒体 電子媒体納品書	CDもし くはDVD	2 1	※松戸市建築事業 に係る電子納品 運用ガイドライ ン（案）	
	■工事実績情報（工事カルテ）の登録 （竣工登録工事カルテ受領書、竣工登録データ） ※500万以上	報告書	1	建1.1.4 電1.1.4 機1.1.4	
	■引渡し関係 ■ 1 予備品等引渡通知書（リスト共） □ 2 キーボックス		3		
	■防水工事に関する保証書 各種防水仕様による保証書（特記仕様による） 元請業者、製造業者及び防水施工業者の連名	保証書	3		
	■保全に関する資料 □ 1 建築物等の利用に関する説明書 □ 2 保守に関する説明書（機器取扱説明書を含む） □ 3 機器性能試験成績書 ■ 4 官公署届出書類	原則、 CDもし くはDVD	2 2 1 1	建1.7.3 電1.7.3 機1.7.3	
	□ 5 総合試運転報告書 □ 6 総合試運転調整報告書		1 1	電1.7.3 機1.7.3	